

問題1

今回のテーマは「大御所時代の家康公」です。家康公が大御所時代を過ごした駿府(駿河国の国府)とは、現在の静岡県のどの都市でしょうか？

- (1) 御殿場市 (2) 静岡市
(3) 富士宮市 (4) 三島市

解説

駿府とは、駿河国の国府(政庁)所在地を意味する「駿河府中」が略されてできた地名で、明治2年(1869)に「静岡」に改称されるまで、飛鳥時代から1200年近く、この地は駿府とも府中とも呼ばれてきました。慶応3年(1867)の大政奉還後、徳川宗家は「府中藩」70万石に移封されますが、明治新政府より「府中」は「不忠」に通じるとの改称要請を受け、明治2年(1869)、駿府城の北西にある賤機山にちなみ、「静岡藩」と改称、さらに明治4年(1871)の廃藩置県により静岡県が成立しました。続いて明治22年(1889)、市町村制度の発足に伴い、静岡市が県庁所在地として誕生しました。家康公はここ駿府(静岡市)で、多感な少・青年期を、そして晩年の大御所時代を過ごしたのです。



静岡市の市章
頭文字のSをイメージし、富士山
と駿河湾の波をデザイン

解答… (2)

問題2

駿府は、幼少期の家康公が人質時代を過ごした場所でもありました。次の東海地方の地図のなかで、駿府がある駿河国は、(1)～(4)のどこでしょうか？



解説

8世紀の初頭(飛鳥時代～奈良時代)までに整備された律令制度により、北海道を除く日本は「五畿七道」(畿内5ヶ国と山陽道、山陰道、東海道、東山道、北陸道、南海道、西海道)に区分され、全国に68の国が成立しました。表の(1)～(4)は東海道に属した国で、(1)が尾張国(愛知県西部)、(2)が三河国(愛知県東部)、(3)が遠江国(静岡県西部)、そして(4)が駿河国(静岡県東部)です。全国の国々には江戸期に約300の藩が置かれていましたが、明治4年(1871)の廃藩置県により藩は県に置き換えられ、統合されていきます。駿府がある「静岡藩」は「静岡県」と改称されました。そして5年後、浜松県(遠江国)と足柄県の南部(伊豆国)が静岡県に統合され、現在の静岡県が成立したのです。

解答… (4)

問題3

幼少期の家康公を人質とし、武将としての教育を施した駿河・遠江・三河の3国を領有した戦国大名は誰でしょうか？

- (1) 今川義元 (2) 織田信秀
(3) 武田信玄 (4) 北条氏康

解説

「海道一の弓取り」の異名を持つ、今川家第十一代当主 今川義元は、桶狭間の戦いで小勢の織田信長に討ち取られたことで後世における評価が低下していました。しかし近年では、駿河、遠江だけでなく三河や尾張にまで領土を拡大させ、武田信玄や北条氏康と対等に渡り合い、今川家の全盛期を築きあげた優れた武将であったと見直されてきています。一方、駿府での人質時代の家康公は、祖母の華陽院に養育され、今川家の軍師 太原雪斎に師事していたとされ、武将としての英才教育を受けていました。元服では烏帽子親を義元が務め、今川氏一族の築山殿を妻として一門衆に準ずる扱いを受けるなど、今川家の次代を担う氏真(義元の長男)の右腕としての活躍を期待されていたようです。

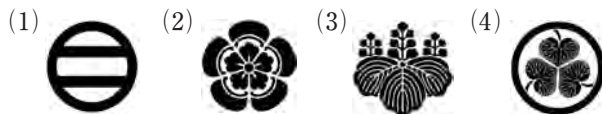


竹千代君・今川義元公 像／
静岡駅北口広場(静岡市)

解答… (1)

問題4

家康公が用いた、松平家・徳川家の家紋はどれでしょうか？



解説

家紋は各家を識別するための紋章で、その家の出自(血脈)や家柄を表すものなど、多くの種類が存在します。平安時代の貴族たちが自分たちの衣服や持ち物に使用したのが始まりと云われ、デザイン性の高い洗練された文様は、市章や社章など、公共団体や企業のシンボルマークにも継承されています。平安後期以降、戦場での武功をアピールする目印として武家社会にも広がっていきました。皇室の「菊花紋」、藤原氏系の「藤紋」などがよく知られますが、最も有名な家紋の一つが、松平家・徳川家の「三つ葉葵紋」です。(1)の「丸に二つ引き紋」は足利家、(2)の「木瓜紋」は織田信長が用いたことで知られます。(3)は後陽成天皇から豊臣秀吉が下賜されたと云われる「五七桐紋」です。



葵紋のもととなったフタバアオイ

解答… (4)

問題5

家康公が、慶長10年(1605)、征夷大將軍の職を譲ったのは、次のうち誰でしょうか？

- (1) 長男 信康 (2) 二男 秀康
(3) 三男 秀忠 (4) 孫 家光

解説

「関ヶ原の戦い」の後、徳川家の家督を誰に譲るべきか家康公が近臣に尋ねたという有名な逸話があります。候補に挙がったのは二男 結城秀康、三男 徳川秀忠、四男 松平忠吉でした。その時、部下の意見は割れたと伝わりますが、この逸話の真偽は不明です。長男 信康は既に天正7年(1579)築山殿の処分の翌月に自刃しています。また二男の秀康は豊臣秀吉の養子となった後、結城晴朝の養子になっていました。徳川家の嫡子の位置づけにあったのは三男 秀忠でした。「関ヶ原の戦い」への遅参という失態はあったにせよ、秀忠への譲位は順当な選択だったと考えられます。なお、孫の家光は慶長9年(1604)の生まれで、將軍職交代の時にはまだ満1歳に満たない年齢でした。



二代將軍 徳川秀忠 像／
松平西福寺 蔵(東京都台東区)
出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (3)

問題6

江戸幕府において、大御所とは、どのような人に対して使われた呼称でしょうか？

- (1) 前の征夷大將軍 (2) 摂政や関白の経験者
(3) 大老や老中の経験者 (4) 武家の棟梁

解説

江戸幕府において大御所とは、征夷大將軍を退いて隠居した前將軍を指す尊称とされています。大御所という呼び方は、家康公に対して初めて使われたものではありません。元々は天皇の居所を指す言葉だったのが、親王の隠居所である御所のことを指すようになり、いつしか、隠居した親王自身を呼ぶ尊称となりました。さらに摂政や関白の実父の尊称としても用いられ、鎌倉・室町時代に入ると、前將軍の尊称としても用いられるようになったのです。大御所となった家康公は、政策の分野で多くのブレーンを置き、専門家たちの提言に耳を傾けながら新しい国の形を作っていました。江戸の將軍家は駿府にいる家康公の意向に従い、実務を実行していったのです。



徳川家康公之像／静岡駅北口広場
(静岡市)

解答… (1)

問題7

家康公の大御所政治を支えた駿府奉行衆の筆頭は誰だったのでしょうか？

- (1) 大久保忠隣 (2) 酒井家次
(3) 平岩親吉 (4) 本多正純

解説

家康公の参謀とも軍師とも懐刀とも呼ばれる本多正信。その嫡子が正純で、幕府草創期から家康公に重用され、駿府大御所政権では奉行衆筆頭として家康公に親しく仕えました。「関ヶ原の戦い」の後、田中吉政は正純の下へ生け捕りにした石田三成を連行しました。正純が家康公に報告すると、正純が滞在していた旅宿にそのまま束縛しておくべしとの命令があり警固したと伝えられます。正純に対する家康公の信任が厚かった証左とされます。また、慶長17年(1612)、築城間もない駿府城が焼失すると、再建までの間、家康公は正純の屋敷で暮らしました。家康公の側近中の側近として駿府政権を支えた正純ですが、二代将軍 秀忠の時代になると秀忠との関係が悪化し、改易されて出羽国由利(秋田県)に配流となっています。



本多正純の居城 宇都宮城／宇都宮城址公園
(栃木県宇都宮市)

解答… (4)

問題8

京都所司代を19年務め、家康公の朝廷・公家対策の要となった人物は、誰でしょうか？

- (1) 板倉勝重 (2) 後藤庄三郎
(3) 土井利勝 (4) 村越直吉

解説

板倉勝重は天文14年(1545)三河武士の板倉好重の二男として現在の岡崎市小美町に生まれました。幼少のころ出家して浄土真宗の僧となりましたが、家督を継いだ弟が「高天神城の戦い」で戦死したため、家康公の命で還俗し家督を相続しました。駿府町奉行などを経て、「関ヶ原の戦い」の翌年から元和6年(1620)まで京都所司代を務めています。家康公が天下の実権を握り、将軍、大御所として国を動かした全期間にわたり、幕府の窓口として朝廷・公家との交渉に当たったのです。「大坂の陣」の際も、方広寺鐘銘事件の調停役となった片桐且元に対する大坂方の暗殺計画を家康公にいち早く報告するなど重要な役割を果たしています。本阿弥光悦ら京都の文化人とも広く交流がありました。



板倉勝重が氏神として生誕地に創建した
瓶井神社(岡崎市)

解答… (1)

問題9

家康公が命じた「天下普請」について、正しい記述は、次のうちどれでしょうか？ ※普請：建築・土木工事

- (1) 城の天下普請に限っては、信頼できる譜代大名に行わせた。
- (2) 天下普請は、外様大名を含む全国の大名に行わせた。
- (3) 天下普請は、江戸をはじめ、関東の開発を中心に行わせた。
- (4) 天下普請は、京都をはじめ畿内の寺社仏閣の改修を中心に行わせた。

解説

天下人、将軍の力の最たるものは、軍勢を催促する動員権でした。しかし、「関ヶ原の戦い」以降、「大坂の陣」までは戦のない状態が続きました。その中で、軍役に準ずるものとして頻繁に行使されたのが城郭の普請役の賦課でした。家康公はこの「天下普請」を西国などの外様大名を含む全国の諸大名に課しました。城郭普請への諸大名の頻繁な動員は、家康公との間に主従関係を確立するうえでも重要な効果があったのです。なお、近世城郭では守りの最重要ポイントである枳形門の築造が重視されました。この場合も石組みは武士による普請であり、上にかかる渡櫓などは大工職人による作事でした。

問題10

次のなかで、「天下普請」でつくられた城はどれでしょうか？

- (1) 安芸 広島城(広島県広島市)
- (2) 丹波 篠山城(兵庫県丹波篠山市)
- (3) 三河 岡崎城(愛知県岡崎市)
- (4) 陸奥 会津若松城(福島県会津若松市)

解説

丹波篠山城は、慶長14年(1609)に天下普請により築城されました。同時に丹波国多紀郡(現 丹波篠山市)にあった八上藩の政庁を篠山に移し篠山藩と改称します。西国の抑えとして初代藩主には譜代大名の松平康重が充てられました。常陸笠間藩3万石から篠山藩5万石に加増移封されたのです。この時期、家康公は盛んに天下普請を行いました。慶長12年には駿府城の普請を開始し、年末に焼失すると、翌年には再建しています。丹波篠山城が築城された慶長14年には、名古屋城築城の地を検分しています。翌年には名古屋城の天下普請が開始され、慶長15年に天守が完成しました。豊臣家・西国大名への対策として幕府の基盤を着実に強化していったのです。



篠山城の石垣(兵庫県丹波篠山市)

問題11

名古屋城天守台の石垣づくりを指揮した、城普請の名手は誰でしょうか？

- (1) 池田輝政 (2) 加藤清正
(3) 保科正之 (4) 松平家忠

解説

加藤清正は藤堂高虎と並ぶ築城の名手と云われました。池田輝政も姫路城を大改修し丹波篠山城の普請総奉行を務めています。名古屋城の天下普請には池田輝政をはじめ多くの西国大名が参加しましたが、天守台の石垣づくりを指揮したのは加藤清正です。尾張国愛知郡中村(現在の名古屋市中村区)の生まれで秀吉に仕え、朝鮮出兵では「文禄の役」の二番隊主将、「慶長の役」の右軍先鋒を務めました。戦後、石田三成と対立し暗殺未遂事件も起こしています。「関ヶ原の戦い」では東軍につき、黒田如水と共に九州の西軍を破りました。その論功行賞から小西行長の旧領・肥後南半国を与えられて肥後一国52万石の大大名となり、熊本藩初代藩主となっています。名城と謳われる熊本城を築城したことでも有名です。



加藤清正 像／勸持院 蔵
(京都市)

出典：ウィキメディア・コモンズ

問題12

名古屋城の築城と共に、武士、町民、寺社仏閣などが一斉に名古屋城下に移り、今日の名古屋の基礎ができました。このことを指す言葉は、次のどれでしょうか？

- (1) 尾張越し (2) 清洲越し
(3) 権現越し (4) 那古野越し

解説

名古屋城の築城に伴い、清洲から名古屋へ都市機能が移転されたことを「清洲越し」と呼んでいます。清洲越しは、慶長17年(1612)から元和2年(1616)の間に行われたとされます。名古屋城が建てられた地には、もともと「柳ノ丸」がありました。16世紀前半に尾張東部まで勢力を伸ばした今川氏親(今川義元の父)が築城したものです。その後、織田信秀が奪取して「那古野城」と改名したとも云われます。信秀の息子である織田信長も一時期、同城を居城としましたが、弘治元年(1555)本拠地を清洲城へ移したため那古野城はやがて廃城となりました。荒れ地になっていたと伝わる廃城の地に新たに城を作るという家康公の決断が今日の名古屋繁栄の基礎となったのです。



名古屋城(名古屋市)

問題13

家康公に重用され、大工頭として二条城、江戸城、駿府城、名古屋城などの天守の建築を命じられたのは誰でしょうか？

- (1) 小堀遠州 (2) 藤堂高虎
(3) 中井正清 (4) 松平家忠

解説

中井正清は、大和の古代豪族巨勢氏の出身で、法隆寺の宮大工として育ちました。家康公の初代大工頭として「関ヶ原の戦い」以降大いに活躍しました。数々の名城に加え、方広寺大仏殿、内裏、久能山東照宮、日光東照宮、知恩院三門などの重要建築物も手掛けています。豊臣秀頼が発願した方広寺大仏殿の建立に際しては、家康公が棟梁として正清を派遣しましたが、完成に際し棟札に正清の名前が無いことが問題になりました。さらに家康公の名前が分断された鐘銘の写しを家康公に送ったのも正清とされています。このように単なる大工頭にとどまらず家康公の出頭人(側近)としても重要な役割を果たしました。



中井正清が手掛けた知恩院 三門(京都市)

解答… (3)

問題14

家康公により、江戸で二代將軍の補佐を託された家臣はだれでしょうか？

- (1) 大久保忠世 (2) 榊原康政
(3) 本多正信 (4) 渡辺守綱

解説

本多正信は三河譜代の家臣ですが、一向一揆の際には一揆方に与し敗れた後は加賀国(現在の石川県)に住みました。その後、家康公の許に戻り側近として軍略や国政に多大の貢献をしました。関東移封の際には関東総奉行に就き相模国玉縄(現在の神奈川県鎌倉市)1万石の大名となっています。浄土真宗の総本山、本願寺が前法主教如と法主准如の間で対立していたのを利用して東西に分裂させ力を弱めるよう献策したのも正信だと伝えられます。家康公は駿府に移るに際し、最も信頼する正信を將軍 秀忠の指南役につけました。秀忠は27歳で將軍に就任し、この年、正信は68歳の高齢でした。家康公が死去すると家督を嫡男の正純に譲り、2ヶ月後に79歳で死去しています。



本多正信 像/加賀本多博物館 蔵
(石川県金沢市)

出典: ウィキメディア・コモンズ

解答… (3)

問題15

慶長10年(1605)、大御所となった家康公^{めい}の命により、流路変更^{りゅうろ へんこう}が行われた西三河^{せいさん}の河川はどれでしょうか？

- (1) 安倍川^{あべ もがみ} (2) 伊賀川^{い が やはぎ}
(3) 最上川^{もがみ} (4) 矢作川^{や はぎ}

解説

正解は(4)です。慶長10年(1605)に矢作川の下流で流路変更がなされました。洪水リスクの軽減を図るため、家康公が三河譜代の旗本米津正勝^{よねきつまさかつ}(徳川十六神将^{つねはる}のひとり、米津常春の子)に命じて施工させたものです。治水技術の向上により、17世紀には各地で河川の大規模な流路変更が行われました。一説には築城技術^{はんらんげん}が治水に応用されたとも言われます。氾濫原^{ひやく}の肥沃な土地が耕地として利用できるようになり、作物の生産量が大幅に増加、17世紀で日本の人口は1,000万人から3,000万人に増加したと推計されています。なお17世紀後半には岡崎北部で青木川の付替^{こうかえ}えと、中洲地帯の地続き工事が行われるなど、引き続き大開発が行われていました。



「東海道五十三次 岡崎 矢はぎ川」／歌川広重

問題16

駿府大御所政治における奉行^{ぶぎょう}のひとり、大久保長安^{なが}の説明として正しいのはどれでしょうか？

- (1) 武田氏に仕えた猿楽衆^{めつぼう}の子で、武田氏滅亡後に家康公に登用^{とうよう}され、大久保彦左衛門忠教^{ひこざ えもんただか}の庇護^{ひご}を受けたため大久保姓を名乗った。
(2) 一里塚^{いちりづか}の設置^{せっち}をはじめ、東海道・中山道の交通制度^{かうりつ こうけん}の確立に貢献した。
(3) 全国の金山・銀山の開発に成功し、石見(島根県)^{いわみ}に所領を得て大名に出世した。
(4) キリシタン追放^{しりょう}の命を請け、上京中^{とうきょう}に突如^{とつじょ}、改易^{かいえき}された。

解説

正解は(2)です。大久保長安^{ただちか}は大久保忠隣^{ひご}の庇護を受けたため、大久保姓を名乗りました。(4)も大久保忠隣^{ただちか}の事跡です。長安は全国の金山の開発に携わり、革新的な技術を用いて歴史的な増産に成功しました。石見銀山の奉行を務めましたが、銀山は幕府直轄領となっています。このほかにも長安は、木曾の林業開発や街道の整備などにも卓越した能力を発揮しています。とても1人で成しえたとは思えない活躍^{たくりえつ}をしており、史料が残っていないのがとても惜しまれます。



問題17

家康公は、平和な世の到来を見据え、各地の河川の開削や改修により、舟運の活用による物流ネットワークの構築や新田開発などを推進しました。次のなかで、家康公のブレーンで豪商の角倉了以が行った事業はどれでしょうか？

- (1) 京の大堰川と高瀬川を開削し、伏見、淀川を経て大坂に至る畿内の水運を整備した。
- (2) 都の飲料を確保するため、琵琶湖から京都に至る水路「琵琶湖疏水」を開削した。
- (3) 湿地帯となっていた江戸の開発のため、江戸湾に注いでいた利根川を太平洋に注ぐよう付け替えた。
- (4) 氾濫の多い木曾三川(木曾川、長良川、揖斐川)の築堤、改修を行った。

解説

京都の繁華街、木屋町通に沿って南に流れる高瀬川。森鴎外の小説「高瀬舟」の舞台ともなり、今も情緒溢れる景観を醸し出していますが、実は、高瀬川は角倉了以・素庵父子によって開削された人工の運河(京と伏見を結ぶ全長約11kmの水路)で、家康公大御所時代に完成しています。大堰川と高瀬川を開削したことで、舟運により農産物や材木などの資材が各地から京都市中に運び込まれるようになり、京の人々の利便性の向上とまちの発展が図られました。

解答… (1)

問題18

家康公は江戸を中心とした街道の整備を進めました。東海道をはじめとする五街道の起点としたのはどこだったのでしょうか？

- (1) 江戸城大手門
- (2) 神田明神
- (3) 品川宿
- (4) 日本橋

解説

日本橋は、家康公が将軍に就任した慶長8年(1603)、江戸の町割を新たに行った際に初めて架橋され、江戸の中央にして諸国への行程もここより定められる故、日本橋の名がついたと『御府内備考』に記されます。家康公は徳川家の新たな拠点となった江戸の町を発展させるため、全国から人や物が集まる仕組みとして日本橋を起点とする五街道の整備に着手しました。日本橋には、貨幣の鑄造所である金座や両替商など経済活動の源となる金融関連施設が集積するとともに、現代にも名が残る大店が軒を連ね、商人や町人が行き交う江戸の中心地となりました。現在、日本橋上空は首都高速道路に覆われ、景観が損なわれていることから、道路を地下移設する計画が進行中です。



「東海道五十三次の内 日本橋 曙旅立の図」／歌川広重

解答… (4)

問題19

「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ……」
と馬子唄に歌われた東海道の交通の難所はどこ
だったのでしょうか？

- (1) 逢坂の関 (2) 大井川
(3) 浜名湖 (4) 宮の渡し

解説

「関ヶ原の戦い」に勝利した家康公は、流通や情報伝達などの円滑化に向け全国の街道の整備に着手します。最も重要視された街道は江戸と上方(京・大阪)を結ぶ東海道でしたが、「箱根八里は馬でも越すが、越すに越されぬ大井川……」と『箱根馬子唄』にも歌われた交通の難所が2ヶ所ありました。箱根峠と大井川です。馬子唄とは、旅人や荷物を馬で運ぶ馬子と呼ばれる人夫が、馬を曳きながら歌った唄のことをいいます。幕府は江戸や駿府の防衛上の観点から、大井川に橋を架けることも船での渡河も禁じていたため、旅人は川越人足を雇って肩車や輿で渡りしかなかった。そのため、雨の後などで水かさが増すと「川留め」により何日も足止めされることがあることから、箱根以上の難所とされたのです。



「女行列 大井川の図」部分／歌川広重

解答… (2)

問題20

国産通貨の流通に向け、家康公が堺の職人、湯浅作兵衛を伏見に呼び、常是座の責任者として造らせたものは何だったのでしょうか？

- (1) 金貨 (2) 銀貨
(3) 銅貨 (4) 紙幣

解説

室町期を通して通貨として使用されていたのは、主に明から流入してきた「永楽銭」と呼ばれる銅銭でした。このため流通量が安定せず、貨幣の価値そのものが地域によって異なってしまう状況だったのです。家康公はこの問題を解決するために、すべて国産の通貨に切り替える施策を実行に移します。まずは贈答品として使われていた金や銀で貨幣を鑄造し流通を促しました。この銀貨の鑄造の責任者として抜擢されたのが湯浅作兵衛です。以後、作兵衛は大黒常是を名乗り、銀貨には「大黒常是」の刻印のあるものが正式な通貨として認められるようになりました。はじめは丁銀と呼ばれる通貨だったのですが、後には種類も増え、人々の暮らしはきちんと管理された通貨のもとに安定していったのです。



慶長丁銀
大黒常是の刻印がある
出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (2)

問題21

三代将軍 家光が銅貨を鑄造、流通させたことで徳川幕府の「三貨制度」が確立しました。この銅貨の名称は何でしょうか？

- (1) 永楽通宝 (2) 寛永通宝
(3) 天保通宝 (4) 和同開珎

解説

人々の暮らしに直結する通貨は、金や銀よりも銅銭でした。国産通貨の流通を目指した幕府は、当初はこれまでの「永楽銭」や私鑄銭(私的に鑄造された銭貨)の使用を認めつつも、慶長13年(1608)には「永楽銭」の使用を完全に停止、少しずつ国産通貨の流通に向けて歩み始めました。三代将軍 家光の代になり、銭座を創設して本格的な国産銅貨の鑄造に取り掛かります。寛永13年(1636) 6月、幕府は江戸の浅草橋場と芝網縄手、及び近江坂本(滋賀県大津市)に銭座を設置。公鑄銭として「寛永通宝」の製造を開始しました。以来、幾度も改鑄などを繰り返しながら、「寛永通宝」は庶民の通貨として江戸時代を通じて、さらに明治になってもしばらくは使われ続けたのです。



寛永通宝

銅だけでなく、真鍮や鉄でもあった。

出典：ウィキメディア・コモンズ

問題22

家康公が天下を治めるために、特に重視した教えは何でしょうか？

- (1) 朱子学 (2) 数学
(3) 徂徠学 (4) 蘭学

解説

家康公は儒教の学説のひとつである朱子学を、天下を治めるための考え方として重視しました。そして朱子学者の林羅山の林家を、幕府の儒者(将軍への教授、学問・文学に関する事柄をつかさどる役職)に代々任じました。徂徠学は荻生徂徠が中国の古文辞学を発展させ提唱した学問で、江戸時代に広まりました。蘭学は江戸時代中期以降、西洋の学術・文化を受容・研究した学問です。蘭学の蘭はオランダの漢字表記(阿蘭陀)からとったものです。現代でいう数学は、江戸時代には「算学」と呼ばれていました。和算とも称され、江戸時代の人々が自分で作った難問を板に記した算額が、寺社に掲げられていたりもします。



林羅山 像(岐阜県下呂市)

問題23

家康公の出版事業に関する事で間違っているのはどれでしょうか？

- (1) 伏見版木活字本の出版は、足利学校校長を務めた閑室元佑を京都に呼んで始めさせた。
- (2) 駿河版銅活字本の出版は、林羅山と以心崇伝を中心に進められた。
- (3) 連歌を特に好み、伏見版木活字を用いて関連する本を出版した。
- (4) 家康公の死後、多くの蔵書が「駿河御譲本」として御三家に分け与えられた。

解説

家康公は「若いころは忙しく、学問を修めてこなかったので、物事を知らないまま歳をとってしまった」と語ったと伝わりますが、実際には多くの本を集め、活字出版を行うなど、学ぶことにも貪欲でした。伏見版木活字・駿河版銅活字を作らせ、『六韜』・『貞観政要』・『吾妻鏡(東鑑)』などの、儒学・兵学・歴史など、実践的な書物を出版しています。「家康公は学問と本を好み、漢詩・和歌・連歌などは好まない」との記録もあり、為政者として必要な知識・教養を重視していたことがよくわかります。



閑室元佑 像(部分)／三岳寺 蔵(佐賀県小城市)

解答… (3)

問題24

家康公が「伏見版」として出版した書物は、次のなかのどれでしょうか？

- (1) 吾妻鏡
- (2) 往生要集
- (3) 源氏物語
- (4) 新古今和歌集

解説

「伏見版」の一冊として『吾妻鏡(東鑑)』が出版されました。同書は、鎌倉幕府の初代将軍である源頼朝から第六代将軍の宗尊親王までの6代の将軍記で鎌倉時代末期に成立したと考えられています。武家政権の最初の記録であり、鎌倉時代研究の基本資料となっています。源頼朝は、平治の乱で一旦は伊豆へ配流されますが、以仁王の令旨を受けて平家打倒の兵を挙げ、鎌倉政権を樹立しました。清和源氏の流れを汲み、初の武家政権を打ち立てた頼朝を家康公は尊敬していたと伝えられます。『吾妻鏡』は家康公の愛読書でした。儒学者の林羅山に命じ、『吾妻鏡』の重要な記事を抄出(抜き書き)した『東鏡綱要』も作成させています。



鎌倉幕府を開いた源頼朝と妻の政子 夫婦像(静岡県伊豆の国市)

解答… (1)

問題25

く のうざんととうしいうぐろ 久能山東照宮に伝わる家康公の「手沢品」の説明で、正しいものはどれでしょうか？

- (1) 金銀宝石を散りばめた、見た目にも派手なものを好んで用いていた。
- (2) 400年以上を経た現在でも、寸分の狂いもなく組み立てられる品がある。
- (3) 刀剣・甲冑をはじめとする武具の品々が大半を占めている。
- (4) 他的大名を攻め滅ぼした戦利品が大半を占めている。

解説

正解は(2)です。久能山東照宮には、「手沢品」とよばれる、家康公が日常的に使用した品々が幾つも収められています。それは、当時の為政者がどのようなものに囲まれて生活していたのか、当時の技術がどのようなものだったのかを知る上で、唯一無二の価値を持っています。家康公の手沢品は一見すると派手さはなく、黄金の茶室に象徴されるような豊臣秀吉の好みとは対照的です。しかし良く見ていくと、細部まで技術の粋が込められており、見る人が見ればわかる玄人好みのオシャレな品のようにも思えます。久能山東照宮博物館でぜひご観覧ください。



久能山東照宮

解答… (2)

問題26

家康公在世中の外交・キリスト教政策として正しいのはどれでしょうか？

- (1) 明国に講和使節を派遣し、朝鮮出兵で途絶えていた国交が回復した。
- (2) キリシタン大名として有名な高山右近をルソンに追放した。
- (3) 全国の大名に、アイヌとの自由な貿易を許可した。
- (4) 島津氏が琉球に攻め入ることに反対した。

解説

高山右近は代表的なキリシタン大名です。摂津国高山荘(現在の大阪府豊能郡豊能町高山)の高山飛騨守の子として生まれ、父が洗礼を受けた際、家族、家臣と共に受洗しています。高槻城4万石の領主となり、領内に多くの天主堂を作りました。領民の多くがキリシタンとなっています。信長、秀吉に仕えましたが、天正15年(1587)、秀吉のバテレン追放令により瀬戸内海の小豆島に住み、翌年、加賀の前田家に預けられました。さらに慶長19年(1614)、幕府からキリシタン国外追放令が出されるとルソン(マニラ)に渡りました。総督から歓迎を受けましたが程無く病死、マニラ全市を挙げて盛大な葬儀が行われました。

解答… (2)

問題27

だいこうかい じ だい
大航海時代のスペインについて、正しいのは、次のどれでしょうか？

- (1) アメリカ新大陸を発見し、太平洋航路を開拓した。
- (2) 「アルマダの海戦」でイギリス海軍を破り、大西洋の制海権を得た。
- (3) インド航路開拓に成功し、インドのゴアや中国のマカオに拠点設けた。
- (4) オランダと「トルデシリャス条約」を結び、世界を分け合った。

解説

スペイン王国の支援を受けたコロンブスは、1492年、スペインから大西洋を横断してカリブ海のサン・サルバドル島に上陸します。アメリカ新大陸の一部にコロンブスが足を踏み入れたのです。その後、スペインはアステカ帝国を滅ぼし、マヤを征服、アメリカ大陸を植民地化していきます。また、スペイン王の命を受けたマゼランは1519年、同国のセビリアを出港、1520年には南米大陸南端のマゼラン海峡を発見します。太平洋を横断して1521年、現在のフィリピンに到達しました。太平洋航路の開拓でした。マゼラン自身はセブ島(フィリピン)で島民に殺害されますが、船団は航海を続け1522年にスペインに戻り初の世界周航に成功しました。

解答… (1)

問題28

みんこくせいふく め ぎ ちようせん り し
明国征服を目指して朝鮮国(李氏朝鮮)に兵を送り、
「文禄・慶長の役」を引き起こした武将は誰でしょうか？

- | | |
|----------|----------|
| (1) 石田三成 | (2) 織田信長 |
| (3) 徳川家康 | (4) 豊臣秀吉 |

解説

豊臣秀吉は天下を統一し、甥の秀次に閑白職を譲った後は太閤(前閑白の尊称)と呼ばれました。明国征服のため「唐入り」を決めた秀吉は、出兵拠点として肥前名護屋城を現在の佐賀県唐津市に築きます。文禄元年(1592)16万人の軍勢を朝鮮に派遣、「文禄の役」が始まりました。当初は朝鮮軍を圧倒しますが、明の援軍により戦線が膠着し、翌年には講和交渉を開始しました。しかし文禄5年(1596)、明との講和交渉が決裂し、慶長2年(1597)に秀吉は14万人の軍勢を再度派遣したのです(「慶長の役」)。しかし翌慶長3年(1598)、秀吉が62歳で死去すると家康公を中心とする五大老により帰国命令が出され、秀吉の目的は結局実現しないままに「文禄・慶長の役」は終結しました。



豊臣秀吉 像／豊国神社(京都市)

解答… (4)

問題29

慶長9年(1604)、李氏朝鮮^{りしちょうせん}の高僧^{こうそう} 松雲大師^{しょううんだいし} (惟政^{ユジョン}) が日本^{おとす}を訪れ、家康公^{かいだん}と会談し、日朝関係^{しゅうふく}の修復^{しゅうふく}が図^{はか}られました。このとき、両国のあいだに入り、窓口^{まじうせいやく}として調整役を果たした武将は誰でしょうか？

- (1) 熊本藩主 加藤清正^{くまもとはんしゅ} (2) 小倉藩主 細川忠興^{こくら}
 (3) 対馬藩主 宗 義智^{そう よしとし} (4) 福岡藩主 黒田長政^{ほそかわただおき}

解説

対馬藩主の宗義智は、対馬に来訪した松雲大師(惟政)と家康公の窓口役を果たしました。朝鮮半島と最も近い場所に位置する対馬の宗氏は、鎌倉時代から朝鮮半島および中国大陆と深い関わりを持ってきました。文永11年(1274)蒙古軍が襲来した「文永の役」ではまず対馬が攻撃され、宗助国が一族郎党とともに戦い戦死しています。蒙古が再来した弘安4年(1281)の「弘安の役」では長男の宗盛明が戦いました。室町時代には倭寇との関連から李氏朝鮮が対馬へ侵攻する「応永の外寇」(応永26年、1419)が起き、宗貞盛が戦っています。その後、両者の間で貿易に関する「嘉吉条約」(嘉吉3年、1443)が結ばれ、李氏朝鮮との貿易は対馬の宗氏が掌握しました。



宗義智 像／万松院 蔵
(長崎県対馬市)

出典：ウィキメディア・コモンズ

問題30

慶長12年(1607)、初めての朝鮮使節^{しせつ} (回答兼刷還師^{けんさつかん}) が来日し、駿府で家康公^{いんけん}が引見しました。この時、朝鮮使節が宿泊した寺院には、「瓊瑤世界」^{けいようせかい}と書かれた扁額が残されています。両国の平和を願い、朝鮮使節が書いたものですが、この寺院とは、次のどこでしょうか？

- (1) 清見寺^{せいけんじ} (2) 滝山寺^{たきさん}
 (3) 龍潭寺^{りゅうたん} (4) 臨濟寺^{りんざい}

解説

清見寺は静岡市清水区興津にある臨濟寺の寺院です。かつて門前には景勝地として有名な清見湯が広がり、多くの貴人文人が訪れました。同寺院は奈良時代の創建と伝えられますが、戦国時代、今川義元の師でもあった太原雪斎が復興し住職を務めています。人質時代の家康公もここで学びました。朝鮮通信使は慶長12年(1607)から文化8年(1811)の間に12回来日し、各地で文化人らと交流しましたが、清見寺は代表的な文化交流の場でした。「瓊瑤世界」は寛永20年(1643)の第5回朝鮮通信使が揮毫した書で、二つの美しい球が互いを照らし輝きあうさまを意味し両国の友好を謳っています。清見寺には、雪斎が開基した臨濟寺と同様、「家康公手習いの間」の遺構が今も残されています。

問題31

琉球王国は、国王が代替わりするごとに、幕府に使節を送りました。この使節の名称は、次のうちどれでしょうか？

- (1) 慶賀使 (2) 謝恩使
(3) 進貢使 (4) 通信使

解説

江戸時代、琉球王国は国王が代替わりするごとに幕府へ「謝恩使」を派遣しました。また将軍が代替わりするごとに「慶賀使」を送っています。これら琉球使節の派遣は、寛永11年(1634)から嘉永3年(1850)までの間に都合18回行われましたが、うち3回は謝恩使と慶賀使が同時に派遣されています(謝恩使11回、慶賀使10回)。琉球使節は、海路で薩摩に到着した後、しばらく薩摩の琉球館に滞在しました。その後、長崎を経て下関から船で瀬戸内海を通り大坂に上陸、京都を経て東海道を江戸に到着しました。往復でほぼ1年がかりの大旅行でした。使節には琉球音楽・舞踏の要員も加わり、将軍・幕閣の前や経路の途上で披露されたため、西日本各地の郷土芸能にも影響を与えました。



琉球人 来朝図(部分)／東京国立博物館 蔵
出典：国立文化財機構所蔵品統合検索システム

問題32

天文18年(1549)、イエズス会の宣教師フランシスコ・ザビエルが、布教のため鹿児島に到着しました。ザビエルを日本に派遣した人物は誰だったでしょうか？

- (1) カンタベリー大司教 (2) スペイン国王
(3) ポルトガル国王 (4) ローマ法王

解説

フランシスコ・ザビエルはポルトガル国王ジョアン3世によってアジアに派遣されました。ポルトガル領だったインドのゴアで最初に布教を行い、天文18年(1549)に来日し初めてキリスト教を日本に伝えています。ザビエルはパリ大学に留学中、イグナチオ・デ・ロヨラ7名でイエズス会を結成しました。同会の特徴は、草創期から世界各地で積極的な布教活動を行ったことです。ゴアを拠点に布教活動を行っていたザビエルはマラッカで鹿児島出身のヤジローに会い日本での布教を決意します。薩摩国、肥前国平戸、周防国山口を経て京都にも上りました。主に周防国山口と豊後国で布教活動を行い、2年間の日本滞在后ゴアに戻りました。次に中国での布教を目指しますが、広東省の上川島で病死しました。46歳でした。



ポルトガル国王 ジョアン3世
出典：ウィキメディア・コモンズ

問題33

家康公が、関東での交易促進のため、スペイン商船の寄港地として望んだ自らの領国の港は次のどこでしょうか？

- (1) 浦賀 (2) 品川
(3) 下田 (4) 横浜

解説

家康公はスペイン商船が三浦半島の浦賀に寄港するように望みました。浦賀港は江戸湾への出入り口である浦賀水道に面した良港でした。戦国時代には後北条氏の水軍の拠点の一つであり、家康公の時代、スペイン船の寄港地となりました。江戸時代になると廻船問屋が軒を連ね、江戸湾に出入りする船が寄港する要衝として栄えています。幕末にはイギリスやアメリカの商船・捕鯨船が来航するようになり、嘉永6年(1853)にはアメリカ海軍提督のペリーが軍艦4隻を率いて来航しました。なお、慶応元年(1865)小栗上野介が横須賀製鉄所の建設を開始したことを端緒に、浦賀に近い横須賀が明治以降の重要基地となっています。現在、浦賀は横須賀市の一部であり、浦賀港も広義の横須賀港の一つとなっています。



浦賀沖に来航したペリー艦隊の旗艦 サスケハナ号

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (1)

問題34

オランダは、江戸時代を通じて日本と交易を行いました。幕末に至るまで、オランダの拠点があったのは、どこでしょうか？

- (1) 長崎 出島 (2) 平戸商館
(3) 横浜外国人居留地 (4) 琉球王国

解説

寛永18年(1641)、オランダ商館は平戸から長崎の出島に移り、以後、幕末まで200年以上同地に置かれました。出島には商館長(カピタン)以下の商館員が常駐し、幕府は長崎奉行を置いて出島を管理させました。オランダ通詞のほか多くの日本人が出島で働いていましたが、日本人の出入りは管理され、オランダ人は例外を除き出島からの外出を禁じられていました。毎年、パタヴィア(インドネシアのジャカルタ)を出港したオランダ東インド会社の商船が来航し数ヶ月間停泊しました。この定期船が出港し貿易業務を終えると、商館長は江戸へ参府しました(累計166回)。将軍への謁見、贈り物の献上などを行ったほか、商館長が毎回提出した「オランダ風説書」は、幕府にとって貴重な海外情報となりました。



「出島阿蘭陀屋敷景」

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (1)

問題35

後の駿府政治の外交顧問 ウイリアム・アダムスとヤン・ヨーステンらは、オランダのロッテルダムから出港して、慶長5年(1600)、豊後国(大分県)に漂着しました。アダムスらが乗っていた船は、次のうちどれでしょうか？

- (1) サン・フランシスコ号 (2) ホープ号
(3) マードレ・デ・デウス号 (4) リーフデ号

解説

慶長5年(1600)、ウィリアム・アダムスらはリーフデ号で豊後(大分県)に漂着しました。ロッテルダムで組成されたハーゲン船団は、旗艦ホープ号、副旗艦リーフデ号に加え、ヘローフ号、トラウ号、ブライデ・ボートスハップ号の5隻でした。1598年、ロッテルダムを出港したハーゲン船団は、南米大陸先端のマゼラン海峡を越えて日本を目指しましたが、2年間の過酷な航海の結果、豊後に辿り着いたのはリーフデ号1隻だけでした。リーフデ号の旧名はエラスムス号。デジデリウス・エラスムスは人文学者、神学者でロッテルダムを代表する著名人であり、船尾には同人の像が飾られていました。この像は栃木県佐野市の龍江院という寺院で祀られ、現在は重要文化財として東京国立博物館に保管されています。



リーフデ号

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (4)

問題36

ウィリアム・アダムスが行ったこととして、間違っているのはどれでしょうか？

- (1) 幾何学などの西洋学問をはじめ、西洋事情や世界情勢など幅広く家康公に講義した。
(2) 全国に交付した「伴天連(キリスト教の宣教師)追放文」を起草した。
(3) 難破した前ルソン臨時総督ドン・ロドリゴ行をメキシコに送り届ける大型帆船を建造した。
(4) 豊臣家との戦いに備え、イギリスからの大砲や武器弾薬の購入について仲介をした。

解説

幕府は、岡本大八事件をきっかけとして直轄地に対し禁教令を出します。さらに慶長18年(1613)、家康公の命により、アダムスではなく、以心崇伝が「伴天連追放文」を起草しました。長文の追放文を一晩で書き上げたとされています。大意は、日本は神国仏国であり、切支丹が邪法を広めることは後世必ず国家の憂いをもたらすゆえに、早く邪法を斥け正法を盛んにする必要がある、というものでした。将軍 秀忠の名で全国に交付され、長崎や京都の教会は破壊され修道会士や主だったキリスト教徒はマカオやマニラに追放されました。江戸時代を通じて幕府のキリシタン禁制の基本法となったのです。

解答… (2)

問題37

ヤン・ヨーステンは、オランダ名門商人の家系で、ウィリアム・アダムスと共に家康公に召し抱えられました。ヨーステンの屋敷のあった地は、彼の名前に因んだ地名で呼ばれ、現在に至っていますが、何という地名でしょうか？

- | | |
|---------|--------|
| (1) 八重洲 | (2) 八坂 |
| (3) 横須賀 | (4) 横浜 |

解説

東京駅八重洲口で知られる「八重洲」はヤン・ヨーステンに因んだ地名と伝わります。彼は「耶揚子(ヤンヨウスまたはヤヨウス)」と呼ばれ、家康公から与えられた屋敷の周辺を「やよす河岸」などと呼ぶようになったのが、地名としての「八重洲」の始まりと云われます。ヨーステンの叔父はオランダの都市デルフトの市長を務め、オランダ東インド会社デルフト支社の重役にも就任していました。彼はリーフデ号で漂着してから20年以上、日本に滞在し家康公に仕えるとともに、自らジャンク船を所有、朱印状を得て東南アジアとの貿易を行いました。1615年には弟がオランダ船で平戸に来航し再会しています。ヨーステンは日本におけるオランダ人の中心的存在として、幕府の要人やイギリス商館長らとも幅広く交流しています。

解答… (1)

問題38

南蛮貿易における、日本の最大の輸出品は何でしょうか？

- | | |
|--------|---------|
| (1) 金 | (2) 銀 |
| (3) 漆器 | (4) 日本刀 |

解説

世界遺産に指定されている石見銀山(島根県大田市)を始め、生野銀山(兵庫県朝来市)や佐渡金銀山(新潟県佐渡市)等、列島各地の鉱山からは大量の銀が産出されていました。戦国時代、銀山を所有していた大名は、その富をもとに国力を増強しました。江戸時代になると、銀山は幕府直轄領となり、幕府を支える重要な資金源の一つとなりました。特に石見銀山では、鉛を使用する「灰吹法」と呼ばれる精錬技術の導入により、良質の銀の大量生産が可能となったことで、大量の銀が世界中に流通したのです。その量は、世界に流通していた銀の約3分の1を占めていたと言われています。この石見銀山の初代奉行を勤めたのが大久保長安でした。



石見銀山の銀採掘のための坑道の一つ
「龍源寺間歩」内部(島根県大田市)

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (2)

問題39

幕府が糸割符制度をつくったことにより、ポルトガル商人から適正価格で主要輸入品の“生糸”を購入できるようになりました。この生糸の原産国はどこでしょうか？

- (1) インド (2) フィリピン
(3) ペルシャ (4) 明(中国)

解説

当時(江戸時代初期)の日本にとって、最も重要な輸入品は中国産の良質な生糸(白糸)でした。国内にも古代から中世にかけて養蚕業はありましたが、織物に必要な良質の生糸を大量に供給できるのは中国だけだったのです。生糸の貿易はポルトガル商人が独占しており、価格決定権を握られ、大量の銀が国内から流出する事態となっていました。家康公は、御用商人である茶屋四郎次郎を中心に京、堺、長崎の特定商人に糸割符仲間(組合)を作らせ、糸割符仲間がポルトガル商人から適正な価格で輸入生糸を一括購入する仕組みを作り、ポルトガル商人の利益独占を排除したのです。当初はポルトガル商人だけを対象としていましたが、後に、中国、オランダ商人にも適用されています。



慶長9年(1604)5月3日付けの「糸割符奉書」本多正純と板倉勝重が署名している／糸割符由緒書より

問題40

幕府の許可を得て朱印船貿易を行った大名は10人いましたが、そのなかの9人の大名(因幡国 鹿野藩主 亀井茲矩を除く)に共通することは何でしょうか？

- (1) キリシタン大名
(2) 西国の譜代大名
(3) 九州の外様大名
(4) 老中など幕閣の譜代大名

解説

朱印船貿易とは、江戸時代初めの慶長9年(1604)から寛永12年(1635)にかけて、幕府から海外渡航を許可された「朱印状」を持った船が東南アジア諸国と行った貿易のことで、350隻以上の朱印船が海外に渡航しました。幕府は朱印状の発行収入と貿易での収入の一部を納付させることで利益を得、貿易当事者は朱印状の所持により、貿易相手国から信用されるとともに、他国から攻撃されるリスクを減らす効果がありました。朱印船貿易を担った大名は、島津忠恒(薩摩藩)、加藤清正(熊本藩)、細川忠興(小倉藩)、有馬晴信・松倉重政(日野江藩)、鍋島勝茂(佐賀藩)、松浦鎮信(平戸藩)、竹中重利(府内藩／大分市)、五島玄雅(福江藩／長崎県五島市)の九州の外様大名9家と設問の亀井家を含めた10家でした。 ※日野江藩(長崎県南島原市)は有馬晴信の死罪後に松倉重政が入封しています。

問題41

朱印船貿易で多くの日本商船が渡航した安南国や交趾国とは、現在のどの国のことでしょうか？

- (1) インドネシア (2) タイ
(3) フィリピン (4) ベトナム

解説

安南国や交趾国は、現在のベトナムにあった国でした。ベトナム中部のフェフオ（現在のホイアン）は当時の代表的な国際貿易港で、16世紀末からポルトガル人、オランダ人、中国人、そして日本人などが来訪して栄えました。「関ヶ原の戦い」の翌年の慶長6年(1601)、家康公は安南国をはじめ東南アジア諸国と外交関係を結び、慶長9年(1604)には朱印船貿易を開始します。フェフオには日本人町や中国人町(中華街)が作られました。日本人貿易商たちによって設計・架橋されたと伝わる石づくりの来遠橋(日本橋)が、世界遺産のまち・ホイアンのシンボルとして今も残されています。また、ベトナム中部の港町ツーラン(現在のダナン)にも日本人町が築かれていました。



日本橋とも呼ばれる来遠橋
(ベトナム ホイアン)

問題42

朱印船貿易の活発化により、東南アジア各地に日本人町が建設されました。代表的な都市として、アユタヤがありますが、これは現在のどの国にある都市でしょうか？

- (1) インドネシア (2) タイ
(3) フィリピン (4) ベトナム

解説

朱印船貿易の活発化とともに、東南アジア各国の交易拠点都市に日本人町(日本人居住区)ができるようになりました。一般的には8ヶ所に日本人町があったと云われますが、最も有名なのが暹羅国のアユタヤです。暹羅は現在のタイ王国です。このアユタヤにあった日本人町で活躍したのが山田長政です。長政は、沼津藩主の太田忠佐に仕え、22歳の時に朱印船で暹羅に渡ったと伝わります。彼は日本人の傭兵に加わった後に頭角を現し、アユタヤの日本人町の頭領になっています。スペイン艦隊の侵攻を2度に亘り退けた功績からアユタヤ国王の信任を得ました。国王の死後、後継ぎ問題が発生し、巻き込まれた長政は40歳にして毒殺されるという波乱万丈の人生を送っています。



「アユタヤ日本人町の跡」
石碑(タイ アユタヤ)

出典：ウィキメディア・コモンズ

問題43

肥前国^{ひぜんのくに} 日野江藩主^{ひのえ} 有馬晴信^{ありまはるのぶ}が、長崎^{ながさき}でのポルトガル船^{げきちん}撃沈^{おんしやう}(ノサ・セニョーラ・ダ・グラサ号事件)の恩賞^{おんしょう}として最も期待^{もっと}したものは何^{きたい}でしょう

- か?
 (1) 官位^{かん い} (2) 旧領回復^{きゅうりやうかいふく}
 (3) 新領地の加増^{かぞう} (4) 幕府の要職^{ようしやく}

解説

もともと有馬氏は日野江城(長崎県南島原市)を本拠地に、島原半島を治める戦国大名でした。ところが、豊後臼杵城(大分県臼杵市)の太友宗麟^{おともそうりん}の圧力や肥前水ヶ江城(佐賀県佐賀市)の龍造寺隆信^{りゅうぞう じたかのぶ}の侵攻で徐々に支配地^{みずがえ}が狭まっていた。旧領回復^{うば}とは、龍造寺隆信に奪われ、そのまま佐賀藩鍋島直茂領となっていた藤津・杵島・彼杵3郡を取り戻すことです。晴信は日野江藩4万石の大名として島原半島を治めていましたが、やはり、旧領回復は有馬氏にとって悲願であったのでしょうか。旧領を恩賞として与えるよう家康公に取り計らう^{かんげん}という岡本大八の甘言に乗り、大八の求めるままに賄賂^{わいろ}を贈った晴信は、無念の最期を迎えることになってしまいました。



有馬晴信の居城 日野江城址
(長崎県南島原市)

出典：ウィキメディア・コモンズ

問題44

前問の有馬晴信から多額^{たがく}の金銭^{きんせん}を騙^{だま}し取る疑獄事^{ぎごくじ}件^{けん}を起こした岡本大八^{おかもとだいはち}は誰^{たれ}の家臣^{けしん}だったでしょう

- (1) 大久保長安^{ながやす} (2) 豊臣秀頼^{ひでより}
 (3) 長谷川藤広^{はせがわふじひろ} (4) 本多正純^{まさすみ}

解説

事件の首謀者である岡本大八は、江戸の与力であった岡本八郎左衛門の子として生まれたと云われ、はじめ長崎奉行の長谷川藤広^{はせがわふじひろ}に仕え、その後、家康公側近の本多正純の家臣になりました。この贈収賄事件により大八は駿府市中を引き回しのうえ、安倍川の河原で火あぶりの刑に処され、騙された有馬晴信も配流先の甲斐国で斬首されました。晴信と大八はキリシタンであり、多額の賄賂はキリスト教の布教資金に回ったと想像されます。また、この事件をきっかけに、駿府城内の家臣や女房衆にも幾人かのキリスト教信者がいることが判明し、家康公は強い危機感を持ちます。家康公が禁教政策に舵^{かじ}を切るきっかけとなった大きな意味を持つ事件といえます。



有馬晴信 木像／
有馬キリシタン遺産記念館
(長崎県南島原市)

問題45

江戸時代に、日本が海外と繋がる窓口となっていた地を、「四つの口」と呼んでいます。四つの口のうち、中国と繋がっていたのは、どの地域でしょうか？

- | | |
|--------|--------|
| (1) 薩摩 | (2) 対馬 |
| (3) 長崎 | (4) 松前 |

解説

正解は(3)の長崎です。長崎といえば「出島」の印象が強く、オランダとの窓口だったことがまず思い浮かぶでしょう。長崎には中国人の居留地である唐人屋敷が設置され、中国船の往来の方が、オランダ船の来往より遥かに多かったとされます。江戸時代は日中間ならびに日本とオランダの間で正式な国交はなく、中国とオランダは日本と交易で繋がる、「通商の国」でした(※朝鮮国と琉球国に対しては国交を結んだ「通信の国」と分類されます)。長崎を代表する祭りの「長崎くんち」は、中国の旧正月を祝う「春節祭」を起源とし、龍が舞う龍踊りや賑やかな鳴物は中国的な雰囲気の色濃く伝えています。長崎の中華街が思い浮かべば、正解に近づけたでしょうか。



長崎くんち 龍踊り(長崎市)

出典：ウィキメディア・コモンズ

問題46

「鎖国」と呼ばれる江戸時代の幕府の外交体制について、正しいものはどれでしょうか？

- (1) 「鎖国」制度は、家康公の遺言により、家康公の死後に実施された。
- (2) 将軍の代替わりごとに、朝鮮から「朝鮮通信使」が派遣された。
- (3) 「四つの口」は、幕府が外国と直接、交流・交易を行った地域である。
- (4) 島津氏の琉球侵攻をきっかけに、琉球は薩摩に付属する国とされた。

解説

正解は(2)と(4)になります。朝鮮通信使は原則として将軍の代替わりごとに派遣され、文化8年(1811)まで計12回に及びました。また、慶長12年(1607)の薩摩藩の琉球侵攻により、琉球は島津氏の支配を受けることになりました。一方で、中国との衝突を避けるため、琉球が中国にも仕える両属を認めていました。「鎖国」は特定の命令・法令によるものではなく、江戸時代前期の様々な問題に対応する中で徐々に形作られていったものです。鎖国体制では「四つの口」と呼ばれる地域を介して、海外との交流・交易が図られていました。



問題47

慶長8年(1603)、征夷大將軍に任じられた家康公が、豊臣家との共存を模索するなかで行ったことは何でしょうか？

- (1) 秀吉の正室 北政所に正二位の官位を贈った。
- (2) 秀吉の7回忌に合わせて豊国祭を開催した。
- (3) 秀頼の母 淀殿のために淀城を建築した。
- (4) 秀頼を、父 秀吉と同じ関白に推薦した。

解説

家康公は始めから豊臣氏を滅ぼそうと考えていたわけではないでしょう。幕府権力を確立しながら、豊臣氏との共存を図ってこうとしていたことは、残された様々な史料からも明らかです。秀吉の七回忌に催した「豊国祭」もその証となる一つの出来事です。この様子は幾種類かの「屏風絵」に描かれており、名古屋市の徳川美術館所蔵のものは、荒木村重の子である岩佐又兵衛の作によるものとされています。ここには、秀吉の遺徳を偲んで踊る人々の姿が描かれる反面、狂乱ともいえる姿や、秀頼や淀殿と考えられる人物などが殺される場面なども描かれ、共存が出来なかった悲劇的な結末を暗示しているようで興味深いものです。



阿弥陀ヶ峰山頂の豊国廟
(京都市)

問題48

豊臣秀吉は亡くなった翌年の慶長4年(1599)、朝廷より神号(神様としての名前)を賜り、豊国神社に祀られました。秀吉の神号は次のどれでしょうか？

- | | |
|--------|--------|
| (1) 権現 | (2) 天神 |
| (3) 菩薩 | (4) 明神 |

解説

慶長3年(1598)8月18日、一代の英傑豊臣秀吉は62年の生涯を閉じました。秀吉の死はしばらくの間は秘密とされましたが、後に豊国神社の社僧となる神龍院梵舜は8月18日条の日記で秀吉の死を記しています。伏見城に置かれていた秀吉の遺骸は慶長4年(1599)4月13日に阿弥陀ヶ峰山頂に埋葬されました。4月18日に遷宮の儀が行われ、その際に「豊国神社」が誕生します。これに先立つ4月16日、朝廷から「豊国大明神」の神号が与えられたと伝わります。これは日本の古名である「豊葦原瑞穂国」を由来としていますが、豊臣の姓をも意識したものだったのでしょうか。4月19日には正一位の神階が与えられ、豊国神社に神として祀られました。



「豊国大明神」の掛け軸／
豊国神社(京都市)

問題49

慶長16年(1611)、天皇の^{じょうい}讓位と^{そくい}即位の式に合わせ、家康公は秀頼と京都で^{かいけん}会見を行いました。会見の場所となったのはどこでしょうか？

- (1) 豊国神社 (2) 二条城
(3) 伏見城 (4) 淀城

解説

家康公は秀頼との会見について、早くからその必要性を考えていました。これは秀頼に臣下の礼をとらせ、豊臣家の存続と大きな戦を避けたいと考えていたからです。慶長10年(1605)5月8日、家康公は高台院(秀吉の妻)を通じて、秀頼に二条城に出向くよう働きかけましたが、豊臣氏の家格を守ろうとする淀殿が反対して実現しませんでした。慶長16年(1611)3月、後水尾天皇の即位に際して上洛した家康公は、再び二条城での秀頼との会見を要請します。応ずれば徳川家への臣従を意味するとして反対もありましたが、加藤清正や浅野幸長らの取り成しもあり会見は実現しました(二条城会見)。この会見の意義については、家康公と秀頼の上下関係説、対等説など諸説があります。



二条城(京都市)

解答… (2)

問題50

前問の会見の際に、秀頼を^{あんさつ}暗殺しようと^{どくまんじゅう}毒饅頭を用意し、自らも^{ようい}食べてみせたとの^{でんしやう}伝承がある三河武士は誰でしょうか？

- (1) 鳥居元忠 (2) 平岩親吉
(3) 本多忠勝 (4) 本多正信

解説

慶長16年(1611)3月28日の家康公と秀頼の「二条城会見」の4ヶ月後、秀頼を護衛した加藤清正が死亡してしまいます。これを受けて巷では「家康公による毒饅頭暗殺計画」がまことしやかに流布されました。秀頼暗殺の密命を受けた平岩親吉が、自ら毒針を刺した饅頭を食べて見せ、秀頼に勧めます。危険を感じた加藤清正がその饅頭を食べ、二人とも死亡したという内容ですが、このことから“遅効性”の毒が饅頭の中に仕込まれていたという内容の噂が広まってしまいました。ただ、このような毒は存在せず、二人の死亡時期も半年離れていた(加藤清正死去 8月2日、平岩親吉死去 翌年2月1日)という事実からも、その信憑性はほとんどないと考えられます。



平岩親吉 像／平田院 蔵(名古屋市)

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (2)

問題51

潤沢な豊臣氏の財産を減らすため、家康公が秀頼に勧めたとされるのはどのようなことでしょうか？

- (1) 多くの浪人を高禄で再雇用すること
- (2) 京都御所の大規模な修築
- (3) 京都を中心とした寺社仏閣の修築
- (4) 江戸城の石垣普請

解説

秀頼は、秀吉の追善供養として畿内を中心に、戦乱で荒廃していた多数の寺社に寄進を行い、伽藍や社殿の再興を行いました。主なもので、寺院では東寺金堂・三十三間堂西大門(現東寺南大門)・延暦寺横川中堂など、神社では石清水八幡宮・北野天満宮・住吉大社の各社殿などで、総数は60件以上に上ると考えられています。ただしこれらの事業は秀頼が幼少の頃になされたものがほとんどであり、秀頼の意思によるものではなく、豊臣氏の財力を削ぐための家康公の策略とも云われています。いずれにしろ、寺社の再興が進んだことでその多くが現存することとなり、重要な文化財として遺されていることは大変素晴らしいことです。



北野天満宮 本殿(京都市)

問題52

豊臣秀頼が再建した京都方広寺の梵鐘に刻まれた、「大坂冬の陣」開戦のきっかけとなった銘文とはどれでしょうか？

- (1) 厭離穢土、欣求浄土
- (2) 国家安康、君臣豊楽
- (3) 侵掠如火、不動如山
- (4) 豊山降霜、子孫殷昌

解説

「方広寺鐘銘事件」と云われますが、当時、方広寺という寺号は実際には存在せず、単に大仏殿などと呼ばれていたようです。この事件は、秀頼が京大仏の造立と大仏殿の再建に際して、寺に納める梵鐘の銘文を巡り生じたものです。筆者は豊臣氏の家老である片桐且元の命により、南禅寺の僧文英清韓が選ばれました。この銘文の途中に「国家安康 四海施化 万歳伝芳 君臣豊楽 子孫殷昌」とあり、林羅山らは「公の諱を家と康に分断して家康を呪詛している」とし、「豊臣を君主として楽しむ」という底意が隠されていると批判したのです。裁定に当たった京都五山の僧たちは、呪詛の意味は“なし”としながらも、諱を使用すること自体が不敬であると結論付けました。



梵鐘に刻まれた銘文／方広寺(京都市)

問題53

前問の「方広寺鐘銘事件」の弁明のため駿府を訪れ、家康公と豊臣家の和平交渉に努めた豊臣家の家老は誰でしょうか？

- (1) 石田三成 (2) 織田長益
(3) 片桐且元 (4) 真田信繁

解説

片桐且元は近江国の生まれで、もともとは浅井長政に仕えていた武士です。長政が織田信長によって滅ぼされた際は最後まで戦い、大野治長らと落ち延びたと考えられています。片桐家はもともと名家であり、後の淀殿を始めとする「浅井三姉妹」などとも親交があったのではと考えられています。後に秀吉によって石田三成や大野治長らとともに召し抱えられ、柴田勝家との「賤ヶ岳の合戦」では「七本槍」と称えられる働きをしました。秀吉亡き後は秀頼の傳役として豊臣家を支えます。家康公とも懇意にしていたという記録もあり、徳川家との交渉を一手に引き受けていました。豊臣家存続のために奔走したことが理解されず、大坂城を追放されてしまいましたが、さぞ無念であったろうと推測されます。



片桐且元 像／
片桐貞史氏 蔵

出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (3)

問題54

「大坂冬の陣」の開戦にあたり、徳川方は大軍勢で江戸から大坂へと向かいました。徳川本軍は1番隊から5番隊で編成されましたが、1番隊筆頭を務めた武将は誰でしょうか？

- (1) 井伊直継 (2) 酒井家次
(3) 鳥居忠政 (4) 本多忠朝

解説

慶長19年(1614)、大坂へ向かうために大御所の家康公は10月11日に駿府を發ちました。同21日には秀忠本軍の先發隊として伊達政宗が進發し、將軍 秀忠が江戸を出發したのは同23日でした。秀忠本軍は1番隊(組)から5番隊ほか旗本大組頭隊などで編成されており、数万人の大軍勢でした。1番隊を率いたのが酒井家次で、以下、2番隊は本多忠朝、3番隊は榊原康勝、4番隊は土井利勝、5番隊は酒井忠世が率いたとされます(「大坂御陣家々御尋記」)。なお、秀忠は「関ヶ原合戦」での負い目もあってか、強行軍にて大坂を目指しました。本軍に追いつかれそうになった政宗は焦ったのでしょう、1番隊の家次に進軍の状況を伝える書状も残されています。



酒井家次の事跡が記されている
「御世紀 四」／致道博物館 蔵
(山形県鶴岡市)

解答… (2)

問題55

「大坂冬の陣」において、豊臣方^{がた}は大坂城の南に特別な出城^{でじろ ぞうせい}を造成し、攻め寄せる徳川方^{せよ}をさんざんに打ち破りました。この出城は何と呼ばれたのでしょうか？

- (1) 真田丸^{さなだまる} (2) 治部少曲輪^{じぶしょうくるわ}
(3) 松の丸^{まつ} (4) 山里曲輪^{やまざと}

解説

豊臣方^{くみ}に与した浪人衆のリーダーとも言えるのが真田信繁^{のぶしげ}でした。後世、真田幸村^{ゆきむら}として講談などで有名になった武将で、猿飛佐助や霧隠才蔵、三好清海入道ら「真田十勇士」が家康公を相手に活躍する架空の物語も生まれています。「関ヶ原の合戦」の際には、居城である信州上田城に父の昌幸と共に立てこもり、徳川秀忠の軍勢を迎え討って破った歴戦^{つばめ}の兵です。「大坂冬の陣」に際しては、大坂城の弱点と考えられた南口に「出城」^にを築きました。武田氏が多く構築した「馬出し」に似た機動性のある出城であり、堀は深く、様々な角度から攻撃できる構造でした。この出城を「真田丸」と呼び、徳川方の主力であった井伊隊や前田隊などがさんざん散々な目にあったのです。



真田丸顕彰碑 (大阪市)

解答… (1)

問題56

「大坂冬の陣」の和睦の結果、大坂城に立てこもっていた浪人^{ろうにん}たちはどのようなようになったのでしょうか？

- (1) 罪科は不問とされ、多くの者が大坂城に残った。
(2) 罪科は不問とされたが、多くの者が大坂城から退去^{たいきょ}した。
(3) 大坂城から追放^{ついほう}されたため、京都 二条城を包囲^{ほうい}して戦った。
(4) 江戸や駿府に連行^{れんこう}され、牢^{ろう}に入れられた。

解説

「冬の陣」の和睦条件の一つに、浪人衆の問題がありました。徳川方は大いに譲歩して浪人衆の罪科を不問としたのですが、これには、秀頼が独断^{はうしやう}で褒賞などを与えないこともその条件でした。浪人衆の力を骨抜きにしようと考えたのです。彼らは多くが大坂城に残り、中には京の町に繰り出して狼藉^{ろうぜき}を働く者なども現れるようになります。規律のとれた軍兵ではなかったのです。彼らの不穏な動きは、板倉勝重らによって逐一、駿府の家康公に伝えられていました。さらには、豊臣方が示した本丸以外の破却^{はきやく}についてもなかなか実行せず、拳句^{あげく}の果てには埋めた堀を掘り返す始末でした。これにより危機を感じた家康公は、「最期の戦い」と覚悟を決め「夏の陣」に向かうことになるのです。



大阪城の内堀 (大阪市)

解答… (1)

問題57

一旦^{いったん}和睦^{わ ぼく}した徳川^{とくせん}幕府^{ぼくふ}と大坂^{おさか}城^{じょう}の豊臣^{へいしん}家^けでしたが、再び^{ふたたび}戦^{いくさ}いとなります。堀^{ほり}を埋^うめられた大坂^{おさか}方^{はう}は城外^{じょうがい}に出て戦^{いくさ}い、激戦^{げきせん}となりました。この「大坂^{おさか}夏の陣^{じん}」の「天王寺^{てんのうじ}口の戦^{いくさ}い」で、徳川^{とくせん}四天王^{しにん}の二男^{になん}が討死^{うちじに}していますが、誰^{たれ}の息子^{むすこ}だったのでしょうか？

- (1) 井伊直政^{いゑなおまさ} (2) 酒井忠次^{さかいただつぐ}
(3) 榊原康政^{さかきはらやすまさ} (4) 本多忠勝^{ほんたかつ}

解説

正解は本多忠勝^{ただとも}の二男 忠朝^{ただとも}です。慶長15年(1600)の「関ヶ原^{せきがはら}の戦^{いくさ}い」には父と共に従軍^{じゆんぐん}、父に劣らぬ戦^{いくさ}いぶりで家康公^{けいこうこう}を感心^{かんしん}させたと伝わります。戦後^{せんご}、父が伊勢桑名藩^{いせさなはん}に移封^{いふく}されると、父の旧領^{きうりやう} 上総大多喜^{かずさおたき}5万石^{ごまんせき}を与えられました。「大坂冬の陣^{おさかふゆのじん}」では、酒を飲んでいたために不覚^{ふかく}を取り、家康公^{けいこうこう}に咎^{とが}められてしまいます。翌20年(1615)の「大坂夏の陣^{おさかなつ}」のとき、忠朝^{ただとも}は汚名^{おみ}を返上^{かへしやう}しようと「天王寺口の戦^{いくさ}い」で先鋒^{せんぽう}を務め、毛利勝永軍^{もうりかつなが}と正面から戦いました。奮戦^{ふんせん}しましたが戦死^{いくし}してしまいます。死の間際^{しのかい}、忠朝^{ただとも}は「戒むべきは酒なり、今後わが墓^もに詣^もでる者は、必ず酒嫌^{さけきら}いとなるべし」と遺言^{ゆいごん}したといわれ、墓のある一心寺^{いっしんじ}には「酒封じの神^{かみ}」としても祀^{まつ}られています。



本多忠朝の墓と酒封じ祈願のひしゃく／一心寺(大阪市)

問題58

炎上^{えんじやう}する大坂城^{おさかじょう}から救^{すく}い出^でされた千姫^{せんひめ}は、翌年^{よくさい}再婚^{さいこん}します。この再婚相手^{さいこんあいて}となった武将^{ぶしやう}は誰^{たれ}でしょうか？

- (1) 京極^{きやうごく}忠高^{ただたか} (2) 本多^{ほんた}忠刻^{ただとき}
(3) 前田^{まへだ}利常^{としつね} (4) 松平^{まつだいら}忠直^{ただなお}

解説

本多忠刻^{ただとき}は本多忠勝^{ただとも}の孫^{まご}にあたる武将^{ぶしやう}です。父親^{ちち}の忠政^{ただまさ}と共に「大坂の陣^{おさかのじん}」に出陣^{しゅつじん}し戦功^{せんこう}を挙げました。眉目秀麗^{びもくしゆれい}で、大坂落城^{おさからくじやう}後に江戸^{えど}に向かう千姫^{せんひめ}に、桑名^{さな}から熱田^{あつた}に向かう船中^{ふねちゆう}で見染められたとの逸話^{いつわ}が残ります。豊臣秀頼^{へいしんひでたか}と死別^{しべつ}した千姫^{せんひめ}に対する家康公^{けいこうこう}の配慮^{はいり}もあり、再婚相手^{さいこんあいて}として忠刻^{ただとき}に白羽^{しやくう}の矢^やが立ちました。家康公^{けいこうこう}は「夏の陣^{なつ}」の翌年^{よくさい}に亡くなりましたが、千姫^{せんひめ}は同年^{どうねん}、父の秀忠^{ひでゆき}から10万石^{じゅうまんせき}の化粧料^{けしやうりやう}を付与^{ふく}されて忠刻^{ただとき}のもとに再縁^{さいえん}します。翌年^{よくさい}、本多家^{ほんたけ}が播磨姫路藩^{はりまひめじろはん}に転封^{てんぷう}されると姫路城^{ひめじろじやう}に居^ゐを移し、長女^{ちやうむすめ} 勝姫^{かつひめ} (池田光政正室^{いけだみつまさのむすめ}) と長男^{ちやうなん} 幸千代^{きよちやう}が生まれました。しかし幸千代^{きよちやう}が3歳^{ぼっ}で没し、寛永3年(1626)には夫^{おつと} 忠刻^{ただとき}が没するなど不幸^{ふこう}が続くと、千姫^{せんひめ}は本多家^{ほんたけ}を娘^{むすめ} 勝姫^{かつひめ}と共に江戸^{えど}城^{じやう}に入り、出家^{でんじゆ}して天樹院^{てんじゆいん}と号しました。



姫路城 千姫曲輪(兵庫県姫路市)

問題59

秀頼には側室の産んだ子が二人いました。8歳の男子の国松は、「大坂の陣」のあと処刑されましたが、娘(国松の妹)はどうなったのでしょうか？

- (1) 大坂城落城の際、父 秀頼、祖母 淀殿とともに自害した。
- (2) 兄と同じく、大坂城脱出後に捕まり、京都六条河原で処刑された。
- (3) 出家を条件に助命され、千姫の養女となり、鎌倉の寺で尼僧になった。
- (4) 女性のため助命され、淀殿の妹 常高院が嫁いだ京極家の養女となった。

解説

秀頼の娘は寺に入って出家することを条件に、千姫の助命嘆願が聞き届けられたと伝わります。当時7歳であった娘は天秀尼と名乗り、鎌倉の東慶寺に入山させられました。「駿府記」によれば、大坂落城の7日後の元和元年(1615)5月12日条に、京極忠高より、秀頼の息女(7歳)を捕らえたという報告が入ったと記されています。なお、秀頼の長男の国松は、この月には京都で斬首されています。家康公は千姫の願いを叶えるよう命じ、秀頼の娘は東慶寺の尼僧として生き延びることができたのです。



東慶寺 山門(鎌倉市)

解答… (3)

問題60

大坂の陣が終わった元和元年(1615)、家康公は「武家諸法度」や「禁中並公家諸法度」を制定しました。家康公に命じられ、これらを起草した(文案をつくった)のは誰でしょうか？

- (1) 以心崇伝
- (2) 板倉勝重
- (3) 南光坊天海
- (4) 林羅山

解説

以心崇伝は家康公のブレーンとして最も有名な僧で、家康公より27歳若い永禄12年(1569)生まれです。名門一色氏の出身で、足利将軍家の側近として将来を約束されていました。しかし元亀4年(1573)、足利義昭が織田信長に追放されて室町幕府が滅亡したため、幼少時に京都五山の筆頭である南禅寺にて出家します。その後は24歳で摂津国の福厳寺、相模国禅興寺の住職となり、慶長10年(1605)2月、37歳で鎌倉五山筆頭の建長寺住職となりました。そして3月には南禅寺270世住職となったのです。その後、慶長13年(1608)に相国寺の西笑承兌の推薦により家康公に招かれて駿府政権に参画します。そして閑室元佶らと共に主に対豊臣外交を担当するようになったと考えられています。



以心崇伝 像/金地院開山堂(京都市)

解答… (1)

問題61

「武家諸法度」及び「禁中並公家諸法度」が^{はっふ}発布された場所はどこでしょうか？

- (1) 「武家諸法度」は江戸城、「禁中並公家諸法度」は京都御所^{ごしよ}
- (2) 「武家諸法度」は駿府城、「禁中並公家諸法度」は知恩院^{ちおんいん}
- (3) 「武家諸法度」は伏見城、「禁中並公家諸法度」は二条城
- (4) どちらも二条城

解説

伏見城は文禄元年(1592)、秀吉により築城された城です。その後、地震による倒壊や「関ヶ原合戦」の前哨戦での西軍の攻撃による炎上などがありました。その後、家康公による再建など三度にわたり建て直された城です。まさに、豊臣から徳川へと天下を治める執政者の居城として、その存在感を示してきました。家康公も、幕府を開いた後も伏見城^{ひんぱん}を頻繁に利用しており、江戸城より在城日数が多かったとされるほどです。秀忠や家光の將軍宣下もここで行われ、「伏見幕府」と呼ぶ研究者も少なくありません。武家諸法度の発布もこのような事情から伏見城で行われました。一方、二条城は朝廷を意識した城でしたから、禁中並公家諸法度の発布にふさわしかったのでしょう。



伏見城跡に造られた「伏見桃山陵(明治天皇陵)」(京都市)

問題62

次のなかで、「武家諸法度」に^{ふく}含まれていない内容はどれでしょうか？

- (1) 文武弓馬^{ぶんぶきゅうば}の道に励むこと^{はげ}
- (2) 酒色^{しゅしょく}に溺れることがないようにすること^{おぼ}
- (3) 犯罪人を匿^{はんざいにん}わないこと^{かくま}
- (4) 城はひとつだけ残し、他の城は^{ほか}廃^{はい}すること

解説

「一国一城令」は「武家諸法度」と同時期に江戸幕府によって出された法令です。諸大名に対し、居城以外のすべての城の破却^{はきやく}を命じたもので、將軍の秀忠が発令しました。ただし、法令の立案者は大御所である家康公であったとされています。この「一国」とは、律令制度における「律令国」と、大名の「領国」の二種類がありました。例えば、尾張徳川家の領国は、尾張国全域と美濃・三河・信濃の国の一部にまたがりましたが、領国一城^{なるせ}という考えに従い名古屋城のみに限られました。しかし成瀬氏などの附家老^{つけがろう}は独立した大名と同様に扱われ、尾張徳川家の領国内にありながら犬山城などは破却されずに残されたのです。



国宝 犬山城天守(愛知県犬山市)

問題63

「武家諸法度」制定の4年前に出された「大名誓詞三ヶ条」の目的は何でしょうか？

- (1) 将軍家(幕府)の命令に従わせること
- (2) 世に溢れる浪人たちの雇用を促進させること
- (3) キリシタンを取り締まること
- (4) 朝廷からの官位・官職を幕府の許可なく受けさせないこと

解説

この「大名誓詞三ヶ条」からは、家康公と秀頼の「二条城会見」との大きな関係性が見て取れます。慶長16年(1611)3月の会見で、秀頼を徳川に臣従させたと考えられていますが、一方で豊臣恩顧の大名たちはいつでも徳川を離れ豊臣に從う、そんな自信が秀頼の堂々とした態度から窺えたのでしょう。家康公は翌4月、後水尾天皇の即位礼に合わせて、在京の諸大名22名を二条城に集め、三ヶ条を誓約させました。それは「源頼朝以後、代々の将軍家が定めた法が守られてきたように江戸の将軍家の法度を守ること」「法度に背いた者は、それぞれの国に隠し置いてはならない」「反逆・殺害人である者を抱えてはならない」といった内容です。徳川将軍家には背かないことを諸大名に誓わせたのです。



解答… (1)

問題64

「武家諸法度」は誰を対象とした法令でしょうか？

- (1) 外様大名
- (2) すべての大名
- (3) 徳川家の家臣
- (4) すべての武士

解説

大名統制のための13ヶ条の「武家諸法度」は、慶長16年(1611)に発せられた「大名誓詞三ヶ条」に以心崇伝が起草した10ヶ条を付け加えたものです。主に文武や倏約の奨励といった武家としての規範を旨としており、それ以外に大名同士の婚姻の許可制や、罪人を匿うことを禁じるなどの統治制限が含まれていました。また許可なく城の増改築を禁ずるなど、大名たちに対する内容ですが、これらは外様・譜代関係なく命じられたものです。五代将軍 綱吉の代に発布された「天和令」までは大名が対象となっていました。その後は大名以外の旗本御家人や藩士(幕府からみた陪臣)など広い意味での武家も含まれるような法令へと変化していきました。



「武家諸法度」提供：東京国立博物館

解答… (2)

問題65

元和5年(1619)、広島城の無断修築が「武家諸法度」に違反したとして、改易された豊臣恩顧の大名は誰でしょうか？

- (1) 宇喜多秀家 (2) 加藤清正
(3) 田中吉政 (4) 福島正則

解説

福島正則の母は、秀吉の母 大政所の妹ということもあり、正則は生粋の豊臣重臣です。「関ヶ原の戦い」では石田三成との私怨から徳川方について戦いましたが、戦後の論功行賞により安芸広島、備後鞆の50万石を与えられました。その後は、豊臣家と徳川家の共存に向けて尽力しましたが、大坂の陣では一族が分かれて戦うことになってしまいます。家康公が死去すると、その年に広島を襲った台風により広島城は大きな被害を受けました。せめて雨漏りは修理したいと幕府に届け出はしてあったものの、許可が下りる前に修理をしてしまいます。結果的にこのことが「武家諸法度」の法令違反とみなされ、信濃国高井野藩4万5千石に減封、数年後にこの地で没しました。



広島城天守(広島市)

解答… (4)

問題66

次のなかで、「禁中並公家諸法度」に含まれていない内容はどれでしょうか？

- (1) 天皇は学問が第一で、政治に関与しないこと
(2) 養子は武家からとることも可能だが、女性は家督を相続できない
(3) 元号は日本の「古事記」や「日本書紀」から選ぶこと
(4) 武家の官位は公家の官位とは別に考えること

解説

元号を改める場合は、(3)のように日本の古典からではなく、原則として中国の漢朝の年号から縁起の良いものを選ぶよう「禁中並公家諸法度」第8条で定められました。この法度は全部で17条からなる法令ですが、1条から12条までが皇室および公家が守るべき様々な規定が記されており、13条以降が僧の官位についての規定となっています。この法度の制定には、6年前の慶長14年(1609)に発覚した猪熊事件がありました。この事件の調査と裁定が幕府が行ったことが契機となり「公家衆法度」「勅許紫衣之法度」などが定められ、「禁中並公家諸法度」に至って、天皇や公家に対する基本方針が確立されたのです。



京都御所 紫雲殿(京都市)

解答… (3)

問題67

徳川御三家のなかで、八代将軍 吉宗と十四代将軍 家茂を出した家はどこでしょうか？

- (1) 尾張家 (2) 紀伊家
(3) 水戸家 (4) 紀伊家と水戸家

解説

御三家はいずれも家康公の男子を始祖とし、家康公の血を引く親藩の最高位にありました。将軍家とともに徳川姓を名乗ること、三つ葉葵の家紋使用が許された別格の大名家でしたが、特に尾張家と紀伊家は将軍の継嗣がない場合に将軍職を継ぐ家、水戸家は副将軍職の家として認められていました。そこで七代将軍 家継が8歳で死去して宗家が断絶した際、八代将軍として迎えられたのは紀伊家の吉宗でした。そして十四代将軍 家茂も紀伊家からの将軍ということになりました。吉宗から家茂までの間は紀伊家の血筋が続いており、家茂の将軍推挙も紀伊家当主であることが大きな理由となったのです。尾張家は六代将軍 家宣の後継に押されたのですが、新井白石らの反対に会い、将軍を輩出することはありませんでした。



和歌山城天守(和歌山市)

解答… (2)

問題68

御三家にならい、後に御三卿の制度を創設した将軍はだれでしょうか？

- (1) 三代 家光 (2) 五代 綱吉
(3) 八代 吉宗 (4) 十一代 家斉

解説

御三卿というのは徳川将軍家の一門で、「田安德川家」「一橋徳川家」「清水徳川家」の三家を指します。彼らは御三家と異なり大名でも藩主でもなく、将軍家の身内として江戸城内に存在し（「部屋住み」）、将軍継嗣を担うだけでなく、御三家や親藩へも養子を提供するなどの役目を負っていました。もともとは、八代将軍 徳川吉宗が、享保16年(1731)に二男の宗武(田安家初代)に、元文5年(1740)に四男の宗尹(一橋家初代)に、それぞれ江戸城内に屋敷を与えたことに始まります。さらに九代将軍 家重が、宝暦9年(1759)に、二男の重好(清水家初代)へ屋敷を与えたことで「御三卿」が成立しました。「寛政の改革」で名高い老中 松平定信は田安家の出身です。



徳川吉宗 像(徳川記念財団 蔵)

解答… (3)

問題69

徳川御三卿のなかで、将軍を出した家はどこでしょう？

- (1) 清水家 (2) 田安家
(3) 一橋家 (4) どこも出していない

解説

一橋家から、十一代将軍 家斉と十五代将軍 慶喜が出ています。慶喜は11歳で十二代将軍 家慶の意向を受けて、水戸家から一橋家の養子となりました。嘉永6年(1853)、ペリー来航の混乱の中で将軍 家慶が病死し、その跡を継いだ十三代将軍 家定は病弱で男子を儲ける見込みがありませんでした。そんな状況の中で将軍継嗣問題が浮上します。慶喜を推す水戸の徳川斉昭や老中 阿部正弘、薩摩藩主 島津斉彬ら「一橋派」と、紀州藩主 徳川慶福を推す彦根藩主 井伊直弼や大奥の有力者などの「南紀派」が対立しました。結果、十四代将軍には紀州藩主の慶福が就任(家茂に改名)しますが、京都で急逝すると、慶喜が十五代将軍となったのです。慶喜が将軍になるまでには様々な曲折があったのです。



徳川慶喜 像(国立国会図書館蔵)

解答… (3)

問題70

尾張徳川家の筆頭附家老 成瀬正成が居城としたのはどの城でしょう？

- (1) 犬山城 (2) 蟹江城
(3) 清洲城 (4) 小牧城

解説

附家老とは、御三家など将軍の一族を大名にした時、将軍からの命令を受けて家老として附属された徳川家の直臣を指します。彼らにしてみれば、将軍家の直臣から陪臣へと格下げになるわけで、命令を受けたものの拒否する家臣たちもいました。このような事情もあり、幕府は彼らを特別に附属させられた家老として「附家老」と呼び、藩主とは別に領地や城を与えて大名格として扱うようにしたのです。尾張徳川家では成瀬家の犬山城と竹腰家の美濃国今尾城、紀伊徳川家では安藤家の田辺城と水野家の新宮城、水戸徳川家では中山家の松岡城(高萩市)など各有名で、それぞれ3万石程度の石高も個別に認められたのです。現在、国宝犬山城は、公益財団法人犬山城白帝文庫が所有しています。



木曽川から望む犬山城(犬山市)

解答… (1)

問題71

田辺城を居城とした、紀伊徳川家の筆頭附家老は誰でしょうか？

- (1) 安藤直次 (2) 竹腰正信
(3) 村越直吉 (4) 水野重次

解説

安藤直次は、駿府で人質生活を送っていた家康公が元服した年(弘治元年/1555)に三河国碧海郡桑子(現在の岡崎市大和町)で生まれた生粋の三河武士です。「姉川の合戦」で初陣、以後、「長篠の合戦」や「小牧・長久手の合戦」などで武功を挙げ、「関ヶ原の合戦」後は第二世代の成瀬正成や本多正純らとともに、家康公の側近として駿府政権に参画しました。慶長15年(1610)には、家康公の命で十男頼宣の附家老に任じられます。しかし、幼い頼宣は駿府に在城していたので、そのまま家康公の大御所政治に参画していました。家康公没後、元和5年(1619)、頼宣が紀伊藩主になり和歌山城に移ると田辺城を拝領、田辺3万8千石の城主となりました。



紀伊田辺城跡(和歌山県田辺市)

解答… (1)

問題72

三河三奉行のひとり、鬼作左として知られる本多重次の子 成重は、家康公の血を引く松平家の附家老を命じられました。どこの藩でしょうか？

- (1) 越後 高田藩 (新潟県上越市)
(2) 越前 北庄(福井)藩(福井県福井市)
(3) 讃岐 高松藩 (香川県高松市)
(4) 陸奥 会津藩 (福島県会津若松市)

解説

本多成重は越前松平忠直の附家老となりました。もともと越前藩は、家康公の二男である秀康に「関ヶ原合戦」の論功行賞として与えられた67万石の大藩でした。慶長18年(1613)に秀康の跡を継いだ忠直の附家老となり、丸岡4万石(現在の福井県坂井市)を領して従兄弟の本多富正と共に若年の忠直を補佐したのです。忠直は「大坂夏の陣」では真田信繁隊と進んで戦い、苦戦しながらも信繁を討ち取る大手柄を挙げました。しかし加増もなく、不満を抱いた忠直は、秀忠の代に乱行が目立つようになり改易されてしまいました。成重はこの時に丸岡藩主として独立し、大名となったのです。丸岡城天守は現存天守として国の重要文化財に指定されています。



丸岡城天守(福井県坂井市)

解答… (2)

問題73

徳川家が江戸で菩提寺として定めた増上寺(東京都港区)の宗派は何でしょうか？

- (1) 浄土宗 (2) 浄土真宗
(3) 天台宗 (4) 臨済宗

解説

徳川家は、家康公が松平姓から徳川姓に改姓する以前から、浄土宗を家の宗派としていました。これは、家康公から6代前の当主である3代 松平信光が、宝徳3年(1451)に岩津城下(岡崎市)に浄土宗鎮西派の信光明寺を建立したことに始まります。松平信光は、曹洞宗、浄土宗西山深草派の寺院も建立していますが、4代 松平親忠が安城松平家の菩提寺として岡崎に浄土宗の大樹寺を建立したことや、息子の超譽が浄土宗総本山の知恩院の門主となったことで、浄土宗との結びつきが一層強くなりました。増上寺は総本山知恩院の下に位置する大本山の一つですが、徳川家の江戸の菩提寺として重要視されました。



増上寺(東京都港区)

解答… (1)

問題74

前問の宗派の総本山で、慶長7年(1602)に伏見城で亡くなった家康公の母 於大の葬儀が営まれた京都の寺はどこでしょうか？

- (1) 延暦寺 (2) 知恩院
(3) 本願寺 (4) 妙心寺

解説

法然によって開かれ、本年(令和6年/2024)、開宗850年を迎えた浄土宗。家康公の母 於大の葬儀は、ここ、浄土宗の総本山 知恩院で営まれました。家康公が將軍宣下を受ける前年の慶長7年(1602)春、於大は家康公の招きで京へ上り、後陽成天皇に拝謁するとともに秀吉の妻 高台院を訪ね、豊国神社に詣でるなど、豊臣家との良好な関係づくりにも尽くしています。しかし、京都で急に病を発し、家康公に看取られ、8月末に伏見城で亡くなりました。天下人の母としての75年の波乱の生涯でした。松平家・徳川家の菩提寺 大樹寺は浄土宗寺院であり、その総本山が知恩院だったのです。



浄土宗の宗祖 法然上人の幼少時(勢至丸)の像と知恩院(京都市)

解答… (2)

問題75

家康公が強く結びついていた神道しんとうの一派はどれでしょうか？

- (1) 伊勢神道 (2) 山王一実神道
(3) 吉田神道 (4) 両部習合神道

解説

吉田神道は、室町時代に京都吉田神社の神主かみぬしであった吉田兼俱かねともが、仏教や道教、儒教などを取り込み創始した神道の一派です。室町幕府や朝廷と強く結びつきながら全国の神社を支配し、神位しん い(神階)や神職しんかいを認める「宗源宣旨そうげんせんじ」や「神道裁許状さいきょじょう」を発給する権限けんげんを獲得しました。また、神道による葬儀方法くわんとくを確立させたのも吉田神道でした。選択肢せんたくしに挙げている伊勢神道は伊勢神宮で生まれた神道です。度会神道とも云われました。山王一実神道や両部習合神道は、「神々は仏が姿を変えて現れてくれたものである」とする本地垂迹説ほんじすいせつを基に、天台宗や真言宗の立場から唱えられた神仏習合の神道です。



吉田神道の根元殿堂である齋場所大元宮／吉田神社(京都市)

問題76

元和2年(1616)、75年の生涯しょうがいを閉じた家康公は神として祀まつられることとなりました。神号しんごうは「権現こんげん」と決定しましたが、これを主張したのは誰だったのでしょうか？

- (1) 以心崇伝 (2) 神龍院梵舜
(3) 西笑承兌 (4) 南光坊天海

解説

家康公の死後「東照大権現」の神号が勅許されました。神龍院梵舜や以心崇伝の唱える明神号に対し、天台宗の南光坊天海は権現号を主張しました。秀吉を豊国大明神として祀った豊臣家が滅びたことも、将軍 秀忠しう ちゆうの裁可さいかに影響を与えたとされます。元和3年(1617)4月、家康公の一周忌に合わせ、家康公の御霊は久能山から日光山に分祀されました。秀忠も参列の下、天海が導師を務めて法会ほうえが行われました。江戸城内の紅葉山にも東照社が勧請されます。寛永2年(1625)、天海とうえいざんは東叡山寛永寺を創建し天台宗関東総本山の初代貫首となりました。神号問題は、江戸期の東照宮信仰を導いた大きな転換点だったといえます。



東照大権現となった家康公の廟所「神廟」／久能山東照宮(静岡市)

問題77

以心崇伝と同じく、大御所 家康公の側近として活躍し、108歳の長寿を全うしたという南光坊天海は、どこで生まれ、少年時代を過ごしたと伝わるでしょうか？

- (1) 下野国 河内郡宇都宮 (栃木県宇都宮市)
- (2) 常陸国 信太郡江戸崎 (茨城県稲敷市)
- (3) 武蔵国 入間郡仙波 (埼玉県川越市)
- (4) 陸奥国 大沼郡高田 (福島県会津美里町)

解説

天海は、陸奥国大沼郡高田(現在の福島県会津美里町高田)で生まれました。同地にある天台宗の龍興寺で得度した後、各地で修行したと伝えられます。慶長4年(1599)に埼玉県川越の無量寿寺北院において第27世住職となり、慶長17年(1612)に寺号を喜多院と改め関東天台宗の本山としました。寛永9年(1632)には、紫衣事件で罪に問われていた僧沢庵の赦免を、柳生宗矩と共に働きかけています。また、織田信長に焼かれた比叡山延暦寺の復興再建にも努め、寛永19年(1642)には家光に願って根本中堂を再建しました。現在、国宝に指定されている総本堂がその時の建造物です。



天海 像 / 輪王寺 蔵
(栃木県日光市)
出典: ウィキメディア・コモンズ

解答… (4)

問題78

京の比叡山延暦寺にならい、天海が江戸城鎮護のため、江戸城の鬼門の方角に創建した寺院は何でしょうか？

- (1) 寛永寺
- (2) 喜多院
- (3) 浅草寺
- (4) 増上寺

解説

家康公が亡くなって9年後の寛永2年(1625)、天台宗の僧 南光坊天海は徳川幕府の安泰と万民の平安を祈願するため、江戸城の鬼門の方角(北東)にあたる上野台地に新たな寺院を創建しました。宗祖 最澄が、朝廷から京の鬼門の方角にあたる比叡山の地を与えられ、延暦7年(788)に京都守護のため創建した延暦寺にならい、山号を東の比叡山を意味する「東叡山」に、また寺号は、延暦寺が創建時の元号を寺号としたことから、同様に「寛永寺」としました。開基は三代将軍 家光です。徳川将軍家の江戸の菩提寺は浄土宗の増上寺でしたが、四代将軍 家綱はじめ6名の将軍の霊廟が造営されたことから増上寺とともに菩提寺となり、天台宗関東総本山として大いに栄えました。



寛永寺 錦絵「東都名所 上野東叡山ノ図」/
歌川広重

解答… (1)

問題79

天正^{てんしやう}18年(1590)の関東移封^{いほう}の際、四天王筆頭^{さい}の酒井忠次^{ひつとう}は既に京都^{きんぎよ}に隠居^{いんきよ}しており、跡取り^{あとと}の家次^{いえつぐ}に下総国臼井^{しもうさのく(にうすい)}(千葉県佐倉市^{さくら})が与えられました。

その後、酒井家は3回^{てんほう}の転封^でを経て、出羽国鶴岡^{わか}(山形県鶴岡市^{たかさき})に入りますが、この間に転封した3つの地とは、高崎^{たか}(群馬県高崎市^{たか})、高田^{たか}(新潟県上越市^{じやうえつ})とどこだったでしょうか？

- (1) 桑名^{くわな}(三重県桑名市) (2) 高山^{たかやま}(岐阜県高山市)
(3) 彦根^{ひこね}(滋賀県彦根市) (4) 松代^{まつしろ}(長野県長野市)

解説

酒井左衛門尉家^{さ え もんのじやう}の忠次を初代とする酒井家は、出羽庄内藩^{しやうないはん}(藩庁は鶴岡の鶴ヶ岡城)に定着するまで4度の転封を経験しています。二代家次の代の慶長9年(1604)に下総臼井3万石から上野高崎5万石へ、さらに元和2年(1616)には越後高田10万石に転封し、三代忠勝の代の元和5年(1619)に信濃松代10万石に転封しました。そして3年後の元和8年(1622)、幕末まで治めることになる出羽国庄内13万8千石へ入部したのです。譜代大名の中でも格別の家であったため、時勢に合わせて要衝^{ようしやう}の地へ配置されたともいえるでしょう。転封ごとに石高が増えていることがそれを示しています。



松代城本丸跡(長野県長野市)

問題80

「関ヶ原^{せきがはら}の戦い」の翌年^{よくねん}、徳川四天王のひとり、本多忠勝^{おおたき}が大多喜^{いすみ}(千葉県夷隅郡大多喜町)から移封された地はどこだったでしょうか？

- (1) 岡崎^{はままつ}(愛知県岡崎市) (2) 桑名^{ひめじ}(三重県桑名市)
(3) 浜松^{はままつ}(静岡県浜松市) (4) 姫路^{ひめじ}(兵庫県姫路市)

解説

正解は(2)の桑名です。本多忠勝が任された大多喜も桑名も、石高は10万石で同じでした。これは戦功を賞して加増を提案された忠勝が断ったためと伝わります。加増の代わりに大多喜を忠勝の二男 忠朝が継ぐことになったとされます(この時は5万石)。桑名は交通^{ようしやう}の要衝で、また豊臣家の領地に接していました。家康公はその最前線を、絶対の信頼を寄せる忠勝に任せたのです。忠勝の死後に桑名を継いだ忠政は、元和3年(1617)に姫路に転封されます。これは豊臣家滅亡後の西国の要衝を押さえるためであり、本多家に期待された役割がよくわかります。なお岡崎には、同じ本多でも広孝の子 康重^{ひろたか やすしげ}が移封されました。

本多忠勝 像／
柿安コミュニティパーク
(三重県桑名市)

問題81

徳川四天王のひとり、榊原康政の跡を継いだ息子
の康勝が病で亡くなると、家康公の命により、他
家から後継者を迎えました。榊原家を継いだのは
誰でしょうか？

- (1) 大須賀忠政の子 忠次
- (2) 酒井忠次の子 康俊
- (3) 榊原康政の兄 清政
- (4) 家康公の八男 仙千代

解説

榊原康政には3人の男子があり、妻の実家の大須賀家に跡継ぎがいなかったことから、長男の忠政が大須賀家を継いでいました。しかし、康政の二男と三男が若くして亡くなったため、大須賀家を継いでいた忠政の嫡子の忠次(康政の孫)が榊原家を継ぐことになったのです。これにより大須賀家は断絶してしまいます。酒井忠次の子の康俊は、伊奈本多家の養子となり、近江膳所藩(滋賀県大津市)を治めました。榊原清政は病弱だったため、弟の康政が代わり戦働きをしたとされます。清政は家康公に久能城を任せられ、久能山東照宮建立後は、子の照久が祭主を務めています。仙千代は家康公とお亀の方の子で、尾張藩初代藩主の義直と母が同じ兄にあたります。



問題82

徳川四天王の内の三傑(本多忠勝、榊原康政、井伊直政)の代替わりの際には、3家共通の問題点が明らかになりました。共通の問題点とは、何だったのでしょうか？

- (1) 家康公から命じられ、彼ら三人に付けられていた御附人と呼ばれる武士たちが、将軍直属の旗本への復帰を求めた。
- (2) 嫡男が病弱、幼少、不在などで相応しい後継者がおらず、他家からの養子が必要となった。
- (3) 跡継ぎをめぐり、家臣団が二つに割れて対立するお家騒動が起こった。
- (4) 転封による城下町の整備や天下普請の負担等で財政が悪化し、大商人からの借財が急増した。

解説

正解は(1)です。家康公から三傑たちに附属するよう命じられていた御附人と呼ばれる武将たちは、三傑の代替わりにあたり、家康公の直属家臣である旗本に復帰することを願っています。領知の大幅な増加を断ってでも、また、謹慎を余儀なくされてでも旗本復帰を望む者が多数おり、三河武士たちにとって、家康公の直臣ということがどれだけ名誉で重要であったのかがうかがえる出来事です。(2)は榊原家、(3)は井伊家の事例として適当です。

問題83

今から500年前の大永4年(1524)、家康公の祖父松平清康が、大久保忠茂の献策で三河山中城を攻略し、岡崎に入りました。約100年後、忠茂の孫の大久保彦左衛門忠教が、この模様を書物に書いています。その書物とは、次のうちどれでしょうか？

- (1) 藩翰譜 (2) 松平記
(3) 三河後風土記 (4) 三河物語

解説

江戸時代初期、大久保彦左衛門忠教が著したのが『三河物語』です。忠教は家康公に仕え、「大坂の陣」では槍奉行として参戦しました。三代将軍 家光の時代に旗奉行として三河に2千石を知行し80歳で没しています。知行地は現在の愛知県額田郡幸田町坂崎に1千石及び岡崎市竜泉寺町などに1千石、菩提寺は長福寺(岡崎市)です。『三河物語』は晩年になって子孫のために残した家訓的性格の強い歴史書でした。徳川氏の歴史に加え、大久保一族や自らの勲功なども織り込まれています。戦国時代から江戸時代初期を研究するうえでの一次資料ですが、徳川家への忠義を説く一方、三河以来の旗本が厚遇されていない現状に対する不満も述べられるなど忠教の率直な心情があらわれています。

問題84

家康公につながる松平氏の初代とされる人物は誰でしょうか？

- (1) 有親 (2) 親氏
(3) 親季 (4) 親忠

解説

松平親氏は、もともとは「諸国を流浪する者」であったとされていますが、時宗の遊行僧として松平郷に入ったとも伝えられます。名を徳阿弥とも徳翁斎とも称していたとされ、諸国の事情に明るく、連歌にも秀でていたようで、松平太郎左衛門信重に認められ娘の婿として迎えられました。以後は、松平郷の有徳人として田畑を切り開き、道を通し、川には橋を架けるなど、諸事業に尽力したとされています。定説では、その後、中山七名(額田郡北部一帯)と交渉を重ねながら、乙川流域に進出し勢力を拡張していききました。松平郷には松平城を築き、力を蓄えた豪族として、後に西三河に進出する足掛かりを作ったのです。家康公はその松平氏の九代目と考えられています。



木造 松平親氏座像／松平郷館
(豊田市)

問題85

天文^{てんぶん}13年(1544)、家康公の母 於大^{おだい}は松平家から離縁^{りえん}され実家に帰されました。前年の父の死により跡を継いだ於大の兄の方針転換によるものといわれますが、この兄とは誰でしょうか？

- (1) 西郷頼嗣^{さいごうよりつぐ} (2) 戸田康光^{とだ やすみつ}
 (3) 久松俊勝^{ひさまつとしかつ} (4) 水野信元^{みずの のぶもと}

解説

刈谷^{かりや}の水野家と安城^{あんじょう}の松平家は、古くから婚姻関係を含め隣国同士としての繋がりはありました。家康公の母である於大も、父の水野忠政と松平清康との縁から、清康の子の広忠に嫁ぐことになったのではないかと考えられます。一般的な定説では、松平家と共に今川方だった水野忠政が没すると、跡を継いだ信元が織田方に転じたため、今川義元への忠誠^{あかし}の証として広忠が於大を離縁したということになっています。ただ、水野家はもともと織田家とも通じており、急に方針転換した訳でもないという説もあります。むしろ、信元と広忠の関係そのものに問題があったと考えてもよさそうです。離縁された於大はその後、阿久比^{あぐい}(愛知県知多郡)の久松家に再縁することになります。



水野家の菩提寺 楞嚴寺^{りょうごんじ}
(愛知県刈谷市)

問題86

家康公の人質時代^{ひとじち じ だい}、三河から駿府^{うつ}に移り住み、母於大に代わって少年期の家康公の養育^{よういく}をした女性是谁でしょうか？

- (1) 継母 真喜姫^{まきはめ} (父 広忠^{ひろただ}の後妻^{ごさい})
 (2) 父方の祖母 於波留^{お はる} (祖父 清康^{つしま}の妻)
 (3) 母方の祖母 於富^{け ふういん} (母 於大の母、華陽院^{け ほういん})
 (4) 大叔母 於久^{お お ば お ひさ} (祖父 清康の妹、隨念院^{ずいねんいん})

解説

於大の母である於富は、一説には駿府の今川義元^{けうぎょ}に請われて竹千代のもとに赴き、竹千代の寓居に近い知源院に住し、ここで読み書きを教えたりしながら養育したと伝えられています。このころには出家して源応尼^{げんおうに}と称しており、竹千代が元服をするまで養育を続けたとされます。この源応尼は、清康に嫁いだ後は、彼の死後、星野、菅沼、川口といった諸氏に再縁していると伝わりますが、清康との婚姻も年代的に不自然な点も多く疑問視されています。ただ、家康公が後年、源応尼の墓を知源院に建て、寺名も法名である華陽院としたことや、刈谷^{かりや}の楞嚴寺^{りょうごんじ}、豊橋^{りゅうねん}の龍拈寺^{りゅうねん}に肖像画が残されるなど、その存在は明らかと考えるとよいでしょう。



源応尼(華陽院)の墓/華陽院
(静岡市)

問題87

永禄3年(1560)、19歳の家康公率いる別動隊の松平勢は「大高城兵糧入れ」を成功させましたが、本隊の大將が敵に討ち取られたため、退却した戦いを何というのでしょうか？

- (1) 小豆坂の戦い (2) 姉川の戦い
(3) 桶狭間の戦い (4) 一言坂の戦い

解説

この「桶狭間の戦い」が家康公の人生の大きな転機となりました。義元の命で今川軍の先陣を務め、困難な「大高城兵糧入れ」を敵中突破をしながら成功させます。しかし大將の義元が信長に討たれ、家康公は大高城からの脱出を図ったのでした。行先は岡崎の大樹寺、松平家の菩提寺でした。ここから今川の将兵が逃げ帰って姿を消した岡崎城に入城出来たことは、家康公にとってまことに幸運であったと言ってよいでしょう。これ以後、今川方として織田信長と局地戦を繰り返しますが、後に和睦、そして軍事的な同盟を結ぶこととなります。ここから自立した家康公の天下平定への歩みが始まるのです。



大樹寺 多宝塔(岡崎市)

解答… (3)

問題88

永禄6年(1563)から翌年にかけて、松平家臣団がふたつに分かれて戦う「三河一向一揆」が起こりました。このとき、一揆側に付いて家康公に敵対したものの赦され、後に徳川十六神将に数えられる活躍をした武士が3人います。それは、蜂屋貞次、鳥居忠広と誰でしょうか？

- (1) 石川康正 (2) 内藤清長
(3) 本多正信 (4) 渡辺守綱

解説

渡辺守綱は三河国額田郡浦部村(岡崎市)出身です。家康公と同年齢の守綱は若い頃から家康公に仕え、17歳のとき、寺部城(豊田市)攻めで初陣を果たしました。槍が得意で、永禄5年(1562)の三河国「八幡の合戦」(豊川市)で、今川氏の家臣である板倉重定に敗れた際、殿を務めて奮戦、大いに武功を挙げました。それ以来「槍半蔵」と呼ばれるようになったと伝えられます。そんな守綱も三河一向一揆の際は、門徒側に与して家康公と争いました。父親の高綱、弟の政綱と共に三河三ヶ寺の一つ勝鬘寺に立てこもったのです。門徒側が敗北すると家康公に帰参を許され、以後は側近として数々の戦いで武功を挙げました。後年は尾張徳川家の附家老となり、初陣の地、寺部に知行地を得ました。



解答… (4)

問題89

元亀元年(1570)、織田信長にしたが従い初の上洛(京の都に上ること)を果たした家康公は、そのまま、信長勢の一員として、ある大名の討伐とうばつに向かいます。ある大名とは誰でしょうか？

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| (1) 浅井長政
<small>あざい ながまさ</small> | (2) 朝倉義景
<small>あさくらよしかげ</small> |
| (3) 松永久秀
<small>まつながひさひで</small> | (4) 三好長慶
<small>みよしながよし</small> |

解説

元亀元年(1570)に起きた織田信長と朝倉義景との戦いは、「金ヶ崎かねがさきの退き口のぐち」とも「金ヶ崎崩れ」とも呼ばれる織田信長の撤退戦です。この年の4月、将軍 足利義昭のための二条御所を築造した信長は、その祝いの席に家康公を呼んでいました。およそ2千～3千の兵を伴い上洛していた家康公は、そのまま越前の朝倉攻めに加わったとされています。もともとは将軍家の命令で、若狭わかさの武藤氏討伐に出兵したのですが、武藤氏を匿かくまっている朝倉氏との戦いに変じたとされています。ところが味方に加わると考えていた近江の浅井長政が朝倉方に加わったため、織田軍は窮地に陥り退却を余儀なくされたのです。この時に家康公は秀吉と共に殿しんがりに加わったとされていますが、一次資料には登場してきません。



朝倉義景 像 複製／滋賀県湖北町 蔵
出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (2)

問題90

元亀3年(1572)、武田信玄が率いる大軍に城を包囲され、2ヶ月間に及ぶ籠城戦ろうじょうせんの末に徳川方が明け渡した城はどこでしょうか？ 城明け渡ししうがいの3日後に「三方ヶ原の戦い」があり、家康公は生涯最大の敗北を喫しています。

- | | |
|--------------------------------------|--------------------------------|
| (1) 高天神城
<small>たかてんじんじょう</small> | (2) 野田城
<small>の だ</small> |
| (3) 浜松城
<small>はままつ</small> | (4) 二俣城
<small>ふたまた</small> |

解説

徳川領に侵攻した武田信玄の動きについては、現在様々な説があり確実なことはわかりませんが、記録されている日付から、「一言坂」で本多忠勝が武田本隊の追撃を防いだ後、武田軍は二俣城攻略に北上。二俣城攻めについては10月16日から12月19日まで、2ヶ月余りを費やしています。その直後に「三方ヶ原の戦い」で徳川・織田連合軍に大勝利しますが、雪交じりの寒い中での戦いでした。武田軍は、浜松城に籠城した家康公らをそのままに西に向かいますが、東三河野田城への進軍は年を越した翌年の2月16日になってしまいました。二俣城の攻略に時間がかかってしまったことは、病身の信玄にとって大変つらい状況を生むことになってしまったのかもしれません。



二俣城天守台(浜松市)

解答… (4)

問題91

天正3年(1575)の「^{ながしの}長篠・^{したらがはら}設楽原の戦い」で長篠城の守将を務め、戦後、家康公の長女 亀姫の夫となった武将は誰でしょうか？

- (1) 奥平信昌 (2) 設楽貞通
(3) 菅沼定盈 (4) 牧野康成

解説

家康公の長女 亀姫を奥平信昌に嫁がせるよう進言したのは織田信長でした。亀姫はまさに政略的な結婚をさせられたのですが、嫁いだ後は奥平家をよく支え、正室としての力を発揮したのです。生涯、信昌に一人も側室を置かせず、自身で4人の男子(家昌・家治・忠政・忠明)と1女(大久保忠常室)を儲けています。夫の信昌が家康公の関東移封に伴い上野国甘楽郡小幡3万石を与えられると共に移り、慶長5年(1600)の「関ヶ原の戦い」後、美濃加納(岐阜市)10万石に封じられると、三男 忠政共々加納に移りました。そして加納御前・加納の方と呼ばれるようになり、領民からも慕われたと伝わります。



奥平信昌 像／久昌院 蔵(京都市)
出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (1)

問題92

天正10年(1582)、京都で「本能寺の変」が起きたとき、信長に招かれていた家康公はどこに滞在していたのでしょうか？

- (1) 安土 (2) 伊賀
(3) 京都 (4) 堺

解説

正解は(4)です。信長により安土城に招かれた家康公一行は、そこで大変な供応を受けました。その後は京洛を周遊するように勧められ、京に一週間ほど滞在しています。信長が本能寺に入る当日の朝には京を発って堺に向かいました。堺では二泊しています。京に戻ろうと堺を出立した早朝、諸資料では東大阪の四条畷付近で、茶屋四郎次郎から「本能寺の変」を知らされ、そのまま木津川を渡って「伊賀越え」を始めたのです。なお、「本能寺の変」の際の家康公一行の動向については、堺を訪問した事情や短期間で滞在を切り上げた背景など解明が期待される点がなお残されています。



妙国寺本堂 家康公一行の堺での宿所(大阪府堺市)

解答… (4)

問題93

慶長5年(1600)の「関ヶ原の戦い」において、戦いの最中に西軍から東軍に寝返り、東軍(徳川方)の勝利を決定づけたとされる武将は誰でしょうか？

- (1) 宇喜多秀家 (2) 大谷吉継
(3) 小早川秀秋 (4) 吉川広家

解説

西軍に属していた小早川秀秋は、松尾山の陣を下り、同じ西軍の大谷吉継隊を攻撃して東軍を勝利に導きました。小早川秀秋の「寝返り」については、従来から様々な説があります。東西の両軍に味方すると言いながら、最後まで東西の軍の旗色を見て動こうとしなかったのを、家康公から鉄砲を撃ちかけられ(問鉄砲)、あわてて大谷吉継の隊に攻めかかったという説が以前からあります。また、最近の研究では、当初から徳川方に属しており、黒田長政と緊密に連絡を取りながら、陣から飛び出した大谷吉継の隊を攻めて壊滅状態にしたという見方もあります。いずれにせよ小早川秀秋は「関ヶ原の戦い」において極めて重要な役割を果たしました。



小早川秀秋 陣所跡／松尾山
(岐阜県関ヶ原町)

問題94

徳川四天王が全員そろって活躍したのは、次のどの戦いでしょうか？

- (1) 小牧・長久手の戦い (2) 関ヶ原の戦い
(3) 長篠・設楽原の戦い (4) 三方ヶ原の戦い

解説

圧倒的な軍勢(8万とも)を持つ秀吉軍に、1万5千の兵力で立ち向かった家康公ですが、ほぼ互角に戦えたのは、四天王を始めとする徳川家臣団が有為な活躍を見せたからでしょう。酒井忠次は、小牧山を狙っていた羽黒砦の森長可を攻め、小牧山を奪取、強固な陣構えができました。両軍が膠着状態になると、榊原康政は長久手合戦の緒戦、「白山林の戦い」で秀吉方の総大将 羽柴秀次を壊滅状態に追い込む活躍を見せました。本多忠勝はわずかな兵で秀吉本隊を威嚇し、長久手に向かわせなかったのです。また井伊直政は赤備えのデビュー戦で敵将の森長可を討ち取るなど勇猛さを示し、「井伊の赤鬼」と恐れられるようになりました。それぞれの個性が示された戦いとなったのです。



榊原康政 石像(岡崎市)

問題95

家康公は、朝廷から孫娘の入内(天皇への嫁入り)について承諾を得ていました。実現したのは家康公が亡くなって4年後のことでしたが、孫の和子が入内した天皇は誰だったのでしょうか？

- (1) 一条天皇 (2) 正親町天皇
(3) 後水尾天皇 (4) 後陽成天皇

解説

徳川和子は「まさこ」と読みます。二代將軍 秀忠の五女で後水尾天皇の中宮となる女性です。慶長16年(1611)に後水尾天皇が即位した際、家康公は和子の入内を申し入れ、慶長19年(1614)には入内の宣旨が出されました。この入内を申し入れたタイミングは、「大名誓詞三ヶ条」を発令した時と重なります。幕府と朝廷との結びつきを強め、豊臣家や外様大名たちに対し幕府の権威を高めておきたい狙いが見て取れます。入内は「大坂の陣」や家康公の死去、後陽成院の崩御などが続き延期されましたが、元和6年(1620)後水尾天皇の女御として入内。その後、中宮(皇后)となり、女一宮を出産しました。女一宮が後に明正天皇に踐祚されると、和子も院号が宣下され東福門院と称されるようになりました。



東福門院 像／
光雲寺 蔵(京都市)
出典：ウィキメディア・コモンズ

解答… (3)

問題96

元和2年(1616)3月、家康公が朝廷より任じられた最後の官職は何でしょうか？

- (1) 関白 (2) 摂政
(3) 左大臣 (4) 太政大臣

解説

太政大臣は、武家では平清盛、足利義満、豊臣秀吉の三人がその地位に就いていました。家康公も晩年はその職を望んでいたのですが、朝廷からの宣下があったのは既に病の床の中でした。前年に制定された「禁中並公家諸法度」では、「武家の官位は、公家当官の外たるべきこと」と規定されています。これ以降、將軍をはじめ、武士が叙任される官位(官職・位階)は、朝廷の管理・統制を離れて幕府にその管理が委ねられるようになりました。この制度の下では、武士で「大臣」になれるのは將軍ただひとりであり、それもおおむね右大臣までにとどまったようです。徳川將軍家の中で太政大臣まで昇進したのは、家康公と秀忠、そして十一代の家斉の3名のみでした。



徳川家康公 木像／大樹寺 蔵(岡崎市)

解答… (4)

問題97

駿府城公園の家康公の銅像の左手には、一羽の鳥が乗っています。家康公が生涯好んだという趣味を象徴する鳥ですが、何という鳥でしょうか？

- (1) 鷹 (2) 鳩 (3) 梟 (4) 不如帰

解説

家康公といえば、薬の調合、剣術、鉄砲の射撃、馬術、弓術、水泳、能楽、囲碁・将棋、読書など多種多様な趣味で知られますが、最も夢中になったものは、やはり駿府人質時代から憧れていた「鷹狩」でしょう。「鷹狩」は調教した鷹に鶴や鴨、雉といった鳥類や兎などの小動物を捕えさせる狩りのことで、家康公は単に趣味や遊興ということだけでなく、領国の民情視察や家臣団の軍事調練、心身の鍛錬など、治世や健康維持にも意義を見出していました。左手に鷹を持った駿府城公園の家康公の銅像は、晩年の駿府・大御所時代に鷹狩りに興じた姿を表した像と云われ、「徳川家康公鷹狩像」とも呼ばれています。



徳川家康公像／駿府城公園
(静岡市)

解答… (1)

問題98

次の徳川将軍のなかで、「大御所」となった将軍は誰でしょうか？

- (1) 三代 家光 (2) 五代 綱吉
(3) 八代 吉宗 (4) 十二代 家慶

解説

八代将軍の徳川吉宗は、時代劇の「暴れん坊将軍」の主人公として現代でも親しみのある人物です。「享保の改革」を推し進め、江戸幕府の「中興の祖」と称される名君 吉宗は享保元年(1716)に将軍職に就き、延享2年(1745)に長男 家重に将軍職を譲りました。しかし、家重は言語不明瞭と伝えられ、政務を円滑に行える状態でなかったため、吉宗は亡くなる寛延4年(1751)まで「大御所」として政務を執り続けました。また、吉宗の曾孫にあたる十一代 家斉は将軍・大御所の在任期間が54年(大御所期間は4年)に及び、その在任期間全体を「大御所時代」と呼ぶことがあります。あと、二代将軍 秀忠も、家光に将軍職を譲った後、亡くなるまでの9年間、大御所政治を行っています。



徳川吉宗公之像(和歌山市)

解答… (3)

問題99

江戸時代、全国の多くの藩には学校(藩校)が設立されました。そのなかで代表的な藩校として有名な「日新館」では、“ならぬことはならぬものです”の文言で知られる「什の掟」を定め、藩士の子弟などの教育を行いました。

この日新館はどこ藩の学校でしょうか？

- (1) 出羽 庄内藩(山形県鶴岡市)
- (2) 常陸 水戸藩(茨城県水戸市)
- (3) 三河 岡崎藩(愛知県岡崎市)
- (4) 陸奥 会津藩(福島県会津若松市)

解説

武士の子弟の教育については、家康公が家臣たちに学ばせた儒教に関する内容が多く含まれています。会津藩では、初代の保科正之の時代から子弟教育が重視されてきたようです。そして幕末近くの享和3年(1803)、「人材の育成」という藩の方針のもと、文武の両教科を教授する総合学校として「日新館」が完成しました。藩士の子弟は10歳になると「日新館」に入学します。「什の掟」は、入学前の子供たちに暮らしの中の約束事を学ばせるものです。



復元された会津藩校 日新館(会津若松市)

問題100

家康公の遺言の一節「天下は一人の天下にあらず天下は天下の天下なり」は、家康公が中国の古典から学んだ言葉だと思われます。家康公は、伏見版としてこの古典の書を出版していますが、中国の何という書物に書かれていた言葉でしょうか？

- (1) 孔子家語
- (2) 貞観政要
- (3) 大蔵一覽集
- (4) 六韜

解説

中国の兵法書である「六韜」の中に出てくる言葉です。家康公が駿府の大御所時代、側近の井上正就に語ったとされる内容がその覚書に記されています。六韜の「韜」とは、剣や弓などを入れる袋の意味です。一卷に「文韜」「武韜」、二巻に「龍韜」「虎韜」、三巻に「豹韜」「犬韜」の60編から成り立っており、少人数で多人数の敵に対する際の戦い方など、非常に実践的な内容です。中でも「虎の巻(虎韜)」は、兵法の代名詞として一般的にも使われており、私たちにも馴染みのある言葉です。六韜のもう一つの特徴は、国王の治世に対する考え方が述べられているという点でしょう。家康公の遺言と考えられているこの名言は、家康公の治世に対する哲学そのものだったのでしょう。



東照公遺言碑／岡崎公園(岡崎市)